

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	漁港施設機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興		
事業内容	本町の基幹産業である水産業の漁業就業者の負担軽減を図るため、主要漁港に漁船巻上機の設置を行う団体へ支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,470	7,192	25,617	6,031	17,024
		(b) 予算現額	6,078	14,392	25,785	6,031	16,448
		(c) 増減額(b-a)	608	7,200	168	0	▲ 576
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	6,078	14,392	25,785	6,031	16,448
	B. 執行済額	5,953	12,807	25,785	5,909	16,448	
	うち交付金充当額	4,762	10,245	20,628	4,727	13,158	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	97.9%	89.0%	100.0%	98.0%	100.0%	
予算の状況の説明	・当初計画していた事業内容は全て実施したほか、活動目標、達成目標を鑑みて適正であったと考えられる。 ・補正減額▲576千円については、工事の入札残や仲里漁港泊地区及び儀間漁港の設置基礎工事が不要(減額)となったことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	漁船巻上機の導入	目標	(1基)	(2基)	(1基)	(3基)	
		実績	1基	2基	1基	3基	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	仲里漁港真泊地区、仲里漁港泊地区及び儀間漁港に漁船巻上機15トン型を各1基導入したことにより、安全性の確保及び作業の効率化(労働負担の軽減)が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	巻上機整備率(全体10基)	目標	()	(40%)	(50%)	(80%)	()
		実績		40%	50%	80%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	大型漁船は重機等をリースし漁船を陸揚げしている状況であったが、漁船巻上機を導入したことにより労働負担や経費負担が軽減された。					

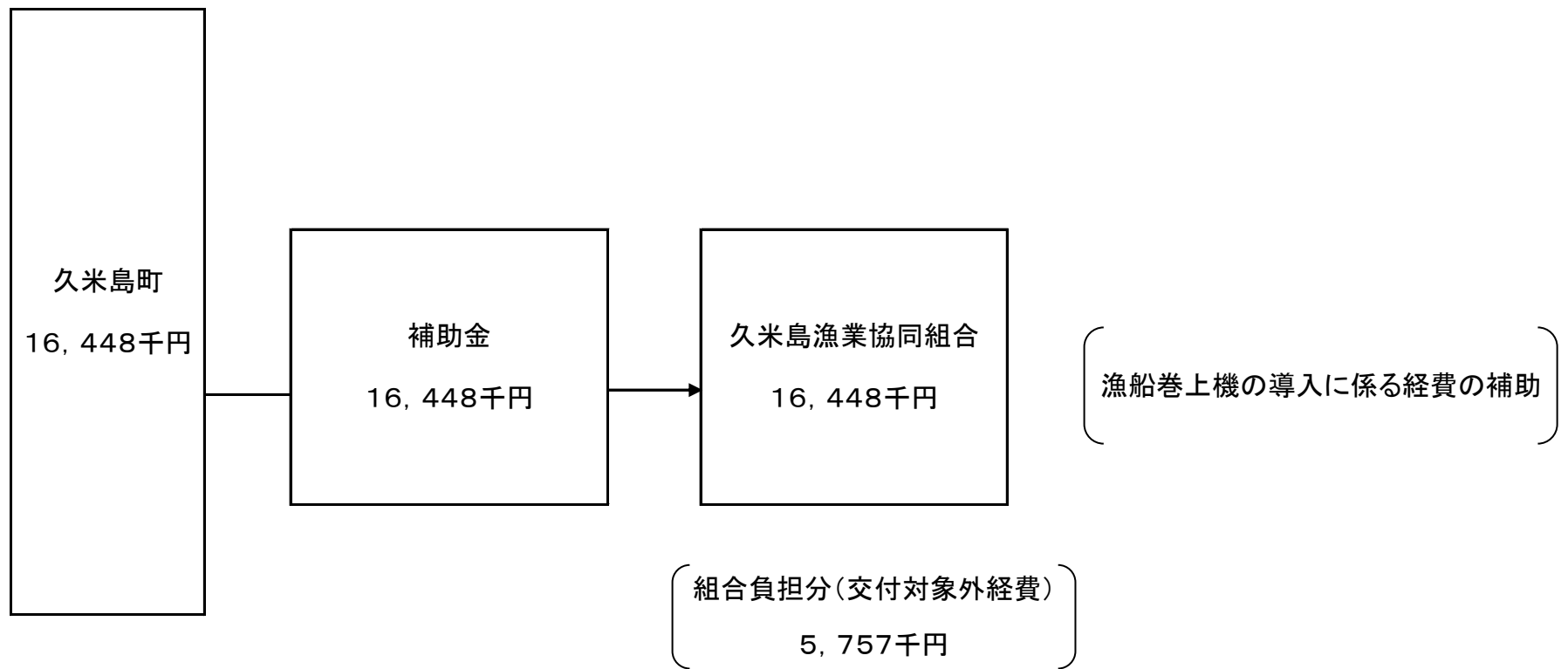
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	漁獲規模の拡大や水産業の振興・発展に向けては、水揚げ後の鮮度保持に課題がある。	現況の鮮度保持施設は、施設機能が低下し、漁業生産活動に影響を及ぼしていることから、乾燥氷の使用により氷の耐久性を向上させ、鮮度保持施設の機能強化を図る必要がある。

今後の取り組み方針

主要漁港である仲里漁港真泊地区において鮮度保持施設の製氷機を整備する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,205	16,448	13,158	3,290	5,757



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である漁協は、漁業者により組織され、実績及び知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は漁業振興を図る上で必要な設備であり、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である漁協は総事業費の約2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	久米島町							
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	優良雌牛導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	子牛生産農家の所得向上を図るため、優良遺伝繁殖雌牛の導入事業を行う団体へ支援を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,100	16,200	27,000	34,200		
		(b) 予算現額	8,100	25,237	34,200	34,200		
		(c) 増減額(b-a)	0	9,037	7,200	0		
		(d) 繰越額	0	0	0	0		
		A. 計(b+d)	8,100	25,237	34,200	34,200		
	B. 執行済額		7,947	25,237	33,320	32,041		
	うち交付金充当額		6,357	20,189	26,656	25,632		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		98.1%	100.0%	97.4%	93.7%		
予算の状況の説明		・高齢化による離農がある中、今後も子牛の価格が高騰していく傾向にあり、今後の事業費増が見込まれるため前年度並みの34,200千円を計上し、優良雌牛の導入を図った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	優良雌牛導入	目標	(30頭)	(54頭)	(70頭)	(80頭)		
		実績	30頭	68頭	75頭	74頭		
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	平成29年度で優良繁殖雌牛の導入を行った。事業実施を年度の早い時期に開始したため、余裕を持って事業執行することができた。当初80頭の導入目標に対し、前年度並みの74頭を導入することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)	
	優良雌牛導入率 ※H33までの導入頭数(累計):510頭	目標	()	(35%)	(32%)	(49.6%)	()	
		実績		40%	34%	48%		
	【H30成果目標】 導入した優良雌牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合:110%以上		目標					110%
	進捗状況説明	優良繁殖雌牛の導入を行った。事業実施を年度の早い時期に開始したため、余裕を持って事業執行することができ、円滑な雌牛の導入が出来た。JAや関係機関と連携し、導入牛の飼養管理指導を行っている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・優良繁殖雌牛の導入にあたっては、県内及び県外の市場で子牛の買い付けを行っているが、県内市場においても子牛価格が大幅に高騰していることが課題となっている。 ・優良繁殖雌牛の導入率は順調に伸びているが、子牛生産地としてのブランド向上のために生産頭数の拡大や導入した母牛の更新が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内市場における子牛価格の高騰に対応するため、補助のあり方を検討する必要がある。 ・生産頭数の拡大や母牛の更新に対応するため、引き続き本事業によって優良繁殖雌牛の導入を支援するほか、導入した牛から生まれた優良な子牛を次の母牛とし、飼養頭数の増加や適切な更新を図っていく必要がある。

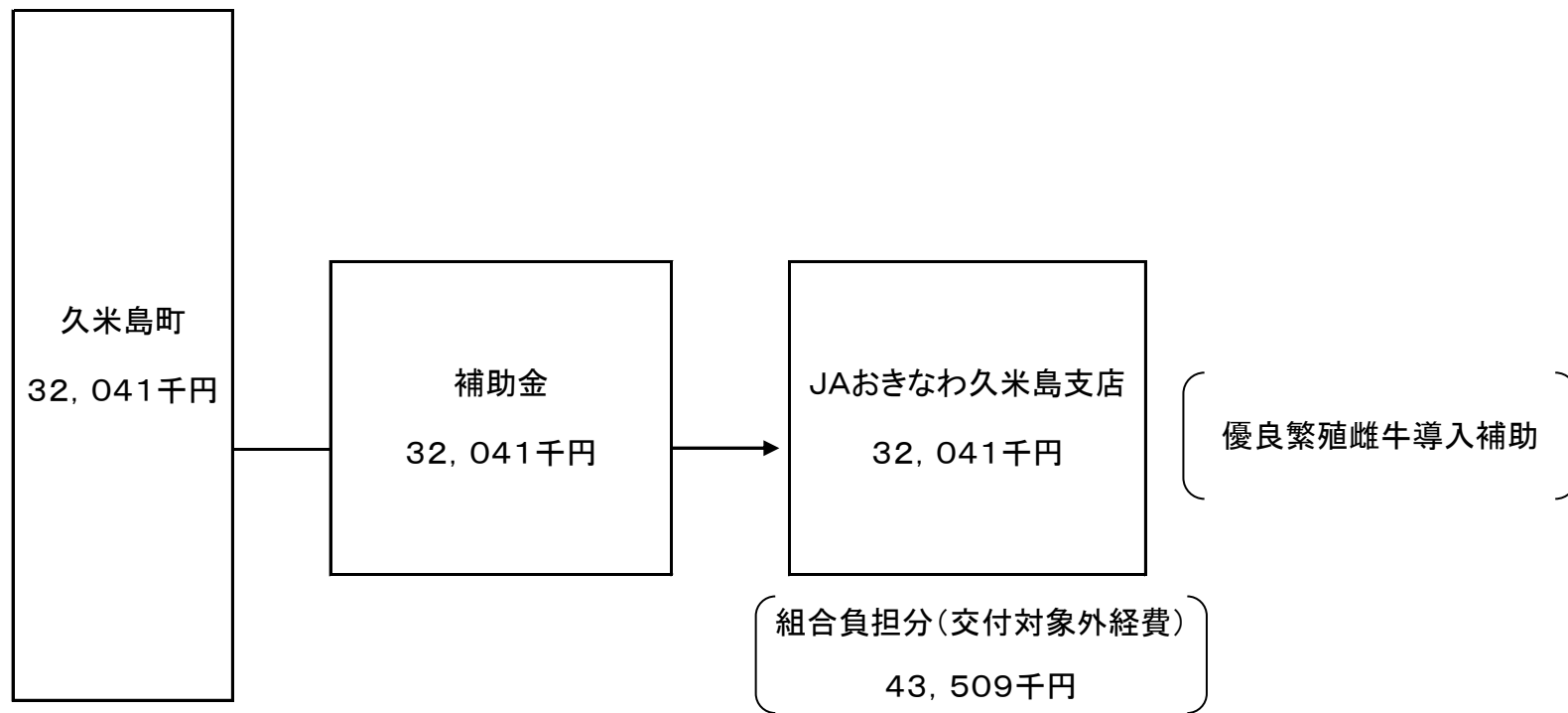
今後の取り組み方針

・引き続き優良な雌牛を導入するため、県内市場における子牛買い付けの補助上限(現在35万円)の改正も含めて、事業目的達成に向けた補助のあり方を検討する。

・関係機関と連携し、農家への営農指導にあたっては、本事業で導入した牛から生まれた優良な子牛を次の世代の母牛とすることで増頭や適切な更新を行うよう促し、畜産業の拡大・振興を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
75,550	32,041	25,632	6,409	43,509



資金の流 れの点 検評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○補助事業者は農業協同組合であり、妥当であったと考えている。</p> <p>○不用額は事業費の7%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○受益者はJAおきなわ久米島支店であり、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	久米島紬販売促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化		
事業内容	久米島紬の付加価値を高め販路拡大し、売上増加を図るため、消費者ニーズに即した販売会や問屋呉服店への販即訪問等を行う団体へ支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,250	10,220	4,194	1,530	2,500
		(b) 予算現額	2,250	10,386	2,500	1,530	2,500
		(c) 増減額(b-a)	0	166	▲ 1,694	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	2,250	10,386	2,500	1,530	2,500
	B. 執行済額		1,997	9,167	1,868	1,068	1,797
	うち交付金充当額		1,597	7,334	1,494	854	1,437
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		88.8%	88.3%	74.7%	69.8%	71.9%
予算の状況の説明		・事業は計画通りに執行した。 ・不用額703千円については、旅費の減(展示会主催者側から旅費の支給があったため)及び商品開発に係る材料一括購入による単価の減額によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	島内・外での展示会参加数	目標	(6回)	(5回)	(8回)	(8回)	
		実績	9回	8回	7回	8回	
	男性用着尺の試作品作成	目標	(-)	(-)	(-)	(6反)	
		実績	-	-	-	6反	
達成状況説明	・島内・外の展示販売会参加回数、男性用着尺の試作品作成は当初の目標を達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	反物売上額	目標	()	(7,000万円)	(7,700万円)	(7,750万円)	(7,950万円)
		実績		6,600万円	6,000万円	6,430万円	
	小物売上額	目標	()	(1,000万円)	(1,500万円)	(1,650万円)	(2,050万円)
		実績		1,200万円	1,700万円	1,610万円	
	進捗状況説明	・反物売上額については、テレビや雑誌等の影響もあり前年度から増加したが目標に届かなかった。 ・小物売上額については、H28年度売上額を下回っているが、H29年度の目標にはわずかに届かなかった。 ・売上目標、実績は、商品開発、物産展、展示販売会での売上を含めた、紬組合全体の売上目標、実績を計上している。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【反物売上】 ・目標値に届かなかった原因として、近年、必要以上に在庫を保有しない傾向にある問屋との取引量が減少しているためだと考えられる。一方、テレビや雑誌の取材件数が増えたことにより「久米島紬」のPRに繋がり、消費者への販売額は増加傾向にある。	【反物売上】 ・これまで開発した着尺と本年度開発した男性用着尺を広くPRし売上増加に繋げる。 問屋だけではなく、消費者への直接販売の強化を図る。 また、安定した生産量の確保を目指し、織り子が生産活動に専念できる環境づくり(産地価格の向上)も急務である
	【小物売上】 ・「久米島紬の日」のイベント開催が町民へのPRには効果があり、小物販売の増加に繋がったが、目標には届かなかった。1アイテムの価格設定が高額であり、若年層が気軽に購入できないのも伸び悩んでいる要因だと考えられる。	【小物売上】 ・既存の商品(現在150アイテム)に加え、スマホケースやトートバッグ等、若年層が普段の生活に取り入れ易く、安価な商品の製作・販売の取組が必要である。

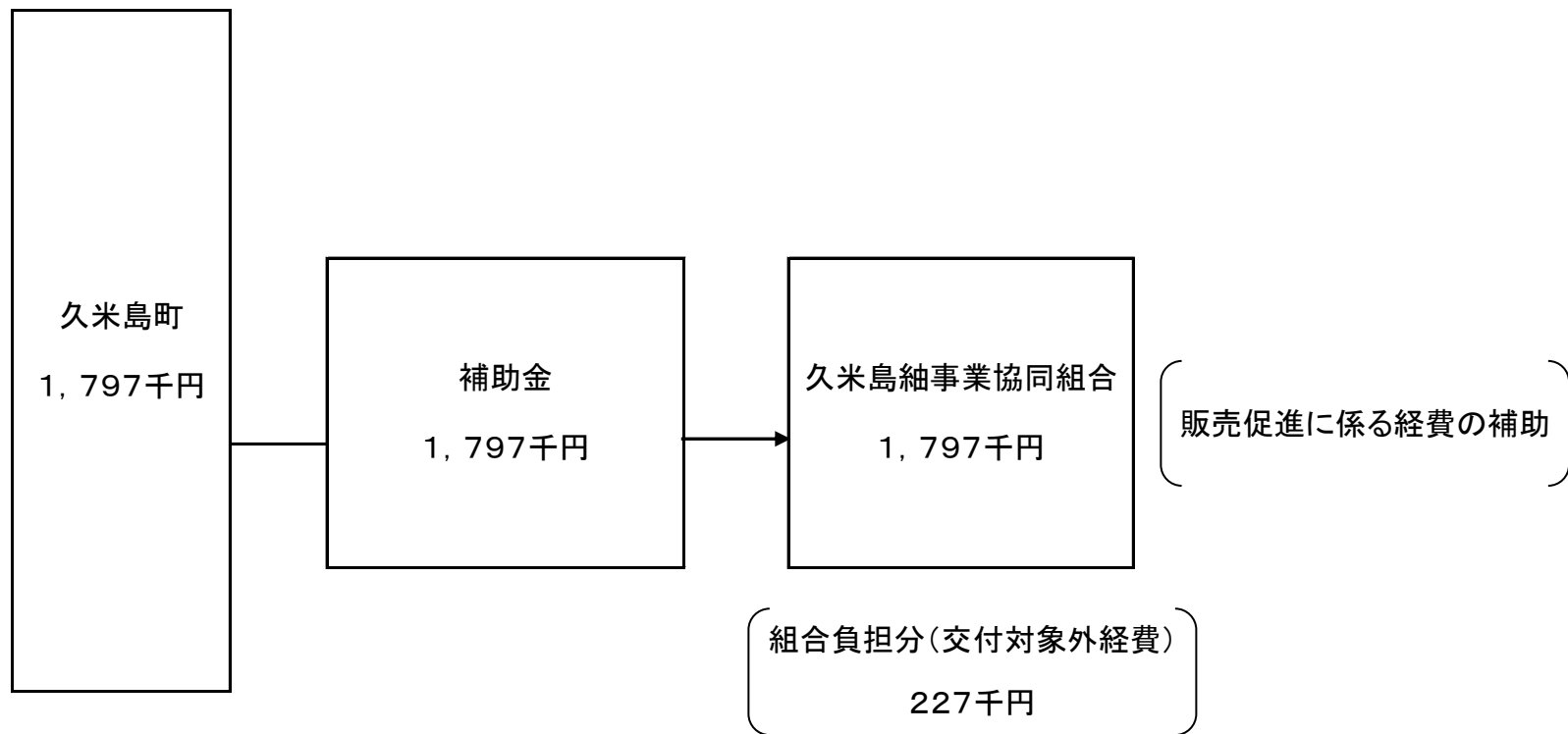
今後の取り組み方針

【反物売上】
 ・島民が「久米島紬」に親しめるイベント(ファッションショー等)開催を通し、島民から「久米島紬の魅力」を島外に積極的に発信してもらうような取組を実施する。
 ・消費者への直接販売強化として、久米島紬事業協同組合のホームページ等でこれまで開発した商品の情報発信を強化する。

【小物売上】
 ・久米島紬の里ユイマール館を観光コースに組み入れるように観光協会との連携を図る。
 ・若者向けの商品の開発、併せてショップの販売強化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,024	1,797	1,437	360	227



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である紬組合は、紬製造従事者により組織され、実績及び知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は紬振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である紬組合は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

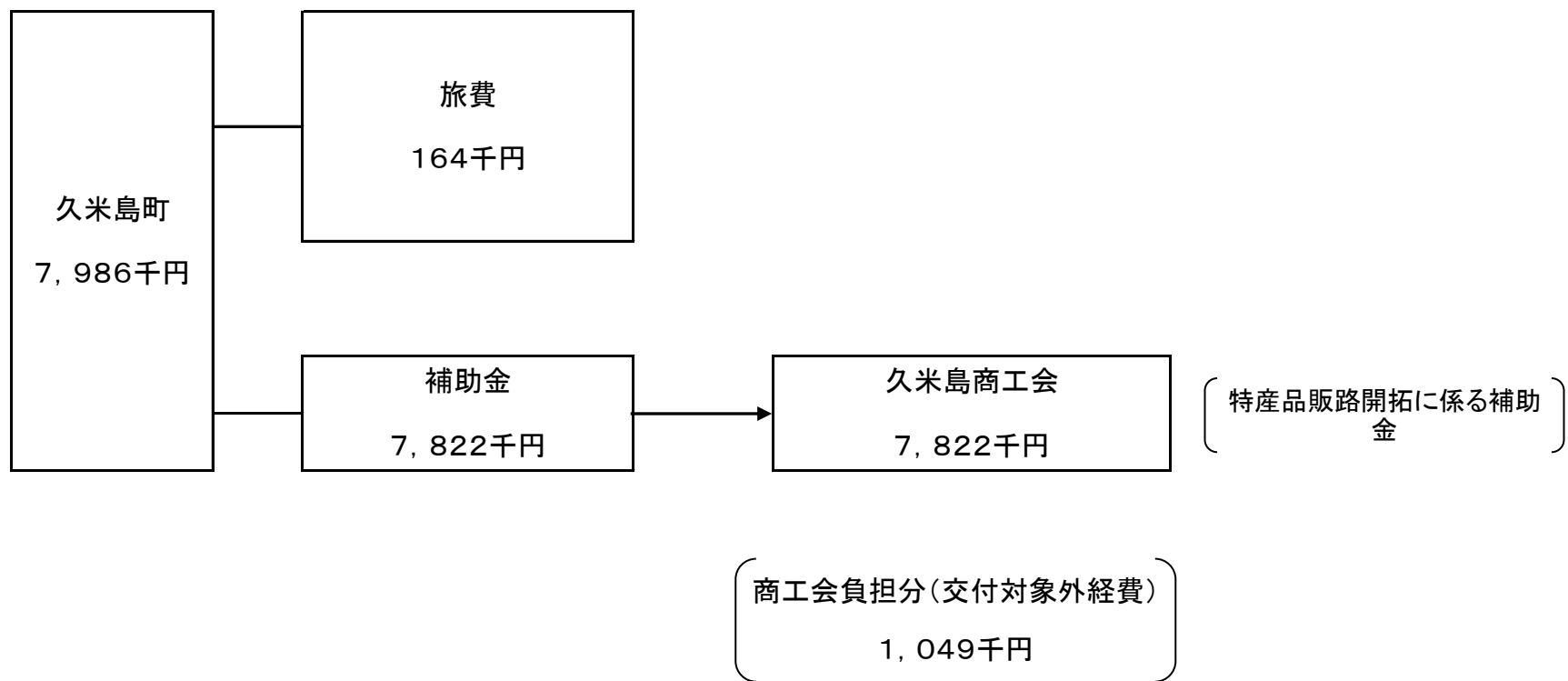
市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	久米島特産品販路開拓事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ		
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	本町特産品の売上増加を図るため、県内外で開催される物産展への出展を支援する。また、加工食品製造スキルアップ研修会の開催や統一デザイン装飾品製作等を行う団体へ支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	44,575	42,000	11,543	22,083	11,090
		(b) 予算現額	44,575	36,338	20,103	8,875	9,319
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 5,662	8,560	▲ 13,208	▲ 1,771
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	44,575	36,338	20,103	8,875	9,319
	B. 執行済額		37,600	35,096	19,212	8,825	7,986
	うち交付金充当額		30,080	28,076	15,369	7,060	6,388
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		84.4%	96.6%	95.6%	99.4%	85.7%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・予算減額(1,771千円)は、県内外催事事業費に不用額が生じたための減額によるものである。 ・計画変更後の事業内容についてはすべて実施した。 ・県外催事への出展事業者数が想定数を下回り旅費に不用額が生じた。 ・県内催事開催経費が予算額よりも抑えられたため不用額が生じた。 					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	講習会・勉強会について	目標	(14回)	(10回)	(12回)	(9回)	
		実績	14回	9回	0回	0回	
	物産展の開催又は参加	目標	(5回)	(10回)	(10回)	(8回)	
		実績	8回	7回	6回	6回	
	特産品パンフレット作成	目標	(-)	(-)	(-)	(10,000部)	
実績		-	-	-	10,000部		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・物産展への参加回数については、他物産展と開催月が重なり参加を取りやめたことにより目標を下回った。 ・特産品パンフレットについては、目標どおり10,000部を作成した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	物産展等における販売額	目標	()	(2,500千円)	(26,480千円)	(33,000千円)	()
		実績	/	2,430千円	25,600千円	25,866千円	/
	講習会参加事業所	目標	()	()	(9社)	(10社)	()
		実績	/	/	1社	未実施	/
	進捗状況説明	【物産展における販売額】 <ul style="list-style-type: none"> ・那覇市内で開催している「久米島町の観光・物産と芸能フェア」の売上が5年連続伸びており、前年実績こそ上回ったものの、その他物産展に関しては、売上が伸びず目標を下回った。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・台風による物産展の中止や他イベントと時期が重なっていたため参加を取りやめた物産展があり、計画どおりの物産展参加ができなかった。 ・物産展に参加しても売上が経費を下回る等の理由により、参加を見合わせた町内事業所が多く、本事業で支援を受けた参加事業所が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台風による中止や他のイベント開催時期をあらかじめ勘案し、事業目的達成に必要な事業計画の策定が必要である。 ・参加した事業者が十分な売上を確保できるよう、参加する物産展の選定に留意する必要がある。また、町内事業所の物産展参加について、情報発信をすることで購買意欲の高い来場者を誘客する必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な回数の物産展参加ができるよう、年間の事業計画を策定し、町内事業所の販売機会の確保を行う。 ・集客・売り上げが見込める物産展を選定し、また、町内事業者の物産展参加について町HP等で情報発信し、事業所の売上確保を図ることで物産等に参加する事業者を確保する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,035	7,986	6,388	1,598	1,049



資金の流し、費用	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、費用	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は商工業事業者によって組織され、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は特産費販路開拓等に必要経費であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である商工会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	久米島観光誘客支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光誘客を図るため、島の魅力を活かした広報活動や、各種イベントを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	32,826	17,184	6,034	16,963	13,391
		(b) 予算現額	32,826	17,184	14,246	16,563	11,391
		(c) 増減額(b-a)	0	0	8,212	▲ 400	▲ 2,000
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	32,826	17,184	14,246	16,563	11,391
	執行率(%) (B/A)	B. 執行済額	18,628	11,668	13,363	16,265	9,883
		うち交付金充当額	14,902	9,334	10,690	13,011	7,906
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
	予算の状況の説明	・計画していたイベントが実施出来なかったため、2,000千円減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	イベント開催	目標	(4件)	(3件)	(3件)	(2件)	
		実績	4件	3件	3件	2件	
	広報推進事業 広報活動	目標	(7件)	(7件)	(7件)	(5件)	
		実績	4件	4件	7件	8件	
	観光案内人配置	目標	(-)	(2名)	(2名)	(2名)	
実績		-	2名	7名	5名		
達成状況説明	<p>・フラダンス、ウォーキングイベントの開催を行い全国から愛好家を誘客した。イベントでは、愛好家の方々が愛読している雑誌への広告掲載と実施の様子をレポート形式で掲載頂いた。のんびりウォークは、ウォーキング協会のホームページや雑誌、各大会でのパンフレットの留め置き等で、日程の広報を行い集客を行った。また、エントリー事務局を活用しWEBからの申込、情報掲載なども新たに行った。</p> <p>・広報推進事業としては、県内での(観光物産展などの)イベントにも積極的に参加し、ポスター掲示、パンフレット配布及び観光案内所を開設し質問にも対応した。</p> <p>・空港案内所は、長時間勤務に対して人材確保が難しくアルバイトで補充したり2ヵ月増員予定が1ヶ月になるなどで人材確保に苦慮した。結果として、実績人数は5名となったが前期に退職者が発生し短期間の勤務者も雇用したためである。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)
	イベント参加人数	目標	(758人)	(880人)	(920人)	(609名)	(1,070人)
		実績		862人	877人	579人	
	入域観光客数	目標	(97,721人)	(99,000人)	(105,000人)	(112,000人)	(120,000人)
		実績		104,304人	111,509人	109,742人	
進捗状況説明	<p>・ハワイアンフェスティバル、のんびりウォークともに定着してきており大会の存続を望んでの次回の日程確認が大会終了時から出ている。ハワイアンフェスティバルも参加者からは舞台のロケーションや生バンドなどの演奏による会場の雰囲気にも満足度の高いイベントになっている。また、のんびりウォークについては、ゴール後に交流会をそのまま行うことで会場にとどまる方が増え交流が増えており、満足度アップにつながった。しかしながら、目標値を達成することが両方とも出来なかった。のんびりウォークについては、記念大会の翌年ということもあり県外参加者は落ち込みがあったが、県内参加者は対前年よりも微増となった。大会運営費の検討を行い、町民参加も有料の枠を増やしたこともあり前年を下回った。</p> <p>・広報推進事業では、県内外でのイベントに積極的に参加し、観光案内を中心とした久米島観光PRを行いパンフレットを配布した。ゆるキャラのく〜みんや久米島紬観光レディは、記念撮影からの拡散効果もあり、積極的に派遣し記念撮影にも応じることで久米島を知っていただいている。</p> <p>・10月の台風による久米島マラソン・那覇地区駅伝大会の相次ぐ大会中止もあり、観光入域客数は対前年比98%と落ち込む結果となった。</p>						

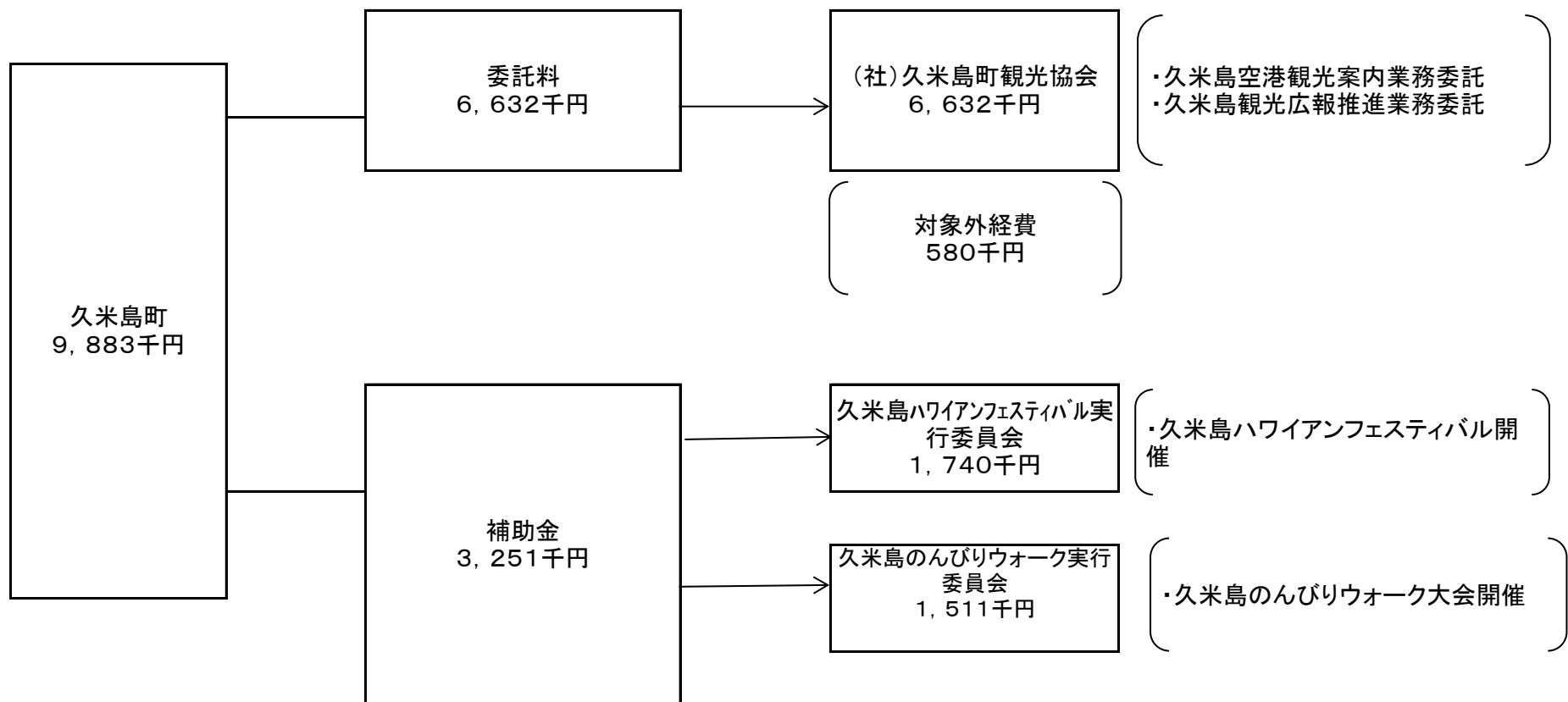
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(イベント参加人数) ・イベントについては、開催が定着してきているが参加人数が伸びなかった。県内外からのお客様へのPR不足が要因と考えられる。	(イベント参加人数) ・イベントの開催要項を早期に告知する。 ・WEB及び関係機関へもイベント情報をさまざまな形で告知し、久米島を知らないお客様も誘客出来るきっかけを作る。
	(観光入域数) ・目標値に届かなかった要因として、台風や天候不良が多く、イベントや行事が中止になった事が考えられる。閑散期の入域数が少ない事も要因と考えられる。	(観光入域数) ・雨天時でも楽しめる観光をPRする必要がある。 ・閑散期の誘客を図り、平準化した観光入域を目指す。 ・空港での観光案内業務のアンケートからのお客様の声の反映と改善を関係者へ促す。

今後の取り組み方針

・各関係機関と連携を密に取り情報交換し、早めに取り組む事で、各種イベントの開催日や告知方法を精査して効果的な手法で集客できるよう取り組む。
 ・イベント参加者のニーズに応え魅力あるイベントにするため、アンケートをもとにイベント内容の改善を図る。
 ・一人でも多くの参加者、一日でも長い滞在を実現するにも久米島の魅力の訴求、物産のアピールをもっと磨いていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,463	9,883	7,906	1,977	580



資金の流 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は観光誘客に必要な経費であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者では総事業費の1.5割を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	久米島観光プロモーション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光誘客を図るため、大手IT企業を活用した観光プロモーションを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		29,000	—	26,244	28,244	25,380
			27,589	—	23,760	28,244	25,380
			▲ 1,411	—	▲ 2,484	0	0
			0	1,739	0	0	0
			27,589	1,739	23,760	28,244	25,380
	B. 執行済額		25,850	1,739	23,112	28,134	25,380
	うち交付金充当額		20,680	1,390	18,489	22,507	20,304
	次年度繰越額		1,739	—	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.7%	100.0%	97.3%	99.6%	100.0%
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鏡みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	国内大手の旅行及び宿泊予約サイトを活用した誘客促進	目標	(旅行・宿泊予約サイトの活用)	(旅行・宿泊予約サイトの活用)	(旅行・宿泊予約サイトの活用)	(旅行・宿泊予約サイトの活用)	
		実績	旅行・宿泊予約サイトの活用(1件)	旅行・宿泊予約サイトの活用(2件)	旅行・宿泊予約サイトの活用(2件)	旅行・宿泊予約サイトの活用(2件)	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	・大手宿泊予約WEBサイト「楽天トラベル」「じゃらんネット」において久米島の魅力を発信する特集ページを制作し情報発信した。 ・テレビ番組「相葉マナブ」、「もしもツアーズ」を放映し、久米島の魅力を発信するプロモーションを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	メディアミックスプロモーション(WEB特集記事・テレビ放映)	目標	()	(-)	(1社)	(2社)	()
		実績		-	2社	2社	
	【H30成果目標】 入域観光客数:123,000人以上		目標				123,000人
進捗状況説明	①大手宿泊予約WEBサイト「楽天トラベル」「じゃらんネット」において久米島の魅力を発信する特集ページを制作し情報発信した。SNSを活用したWEBプロモーションを行い、久米島の魅力を発信するプロモーションを実施した。また、SNSを通して多くの方に久米島の魅力を発信した。 ②テレビ番組は、久米島の認知度向上に向け、2本放映した。						

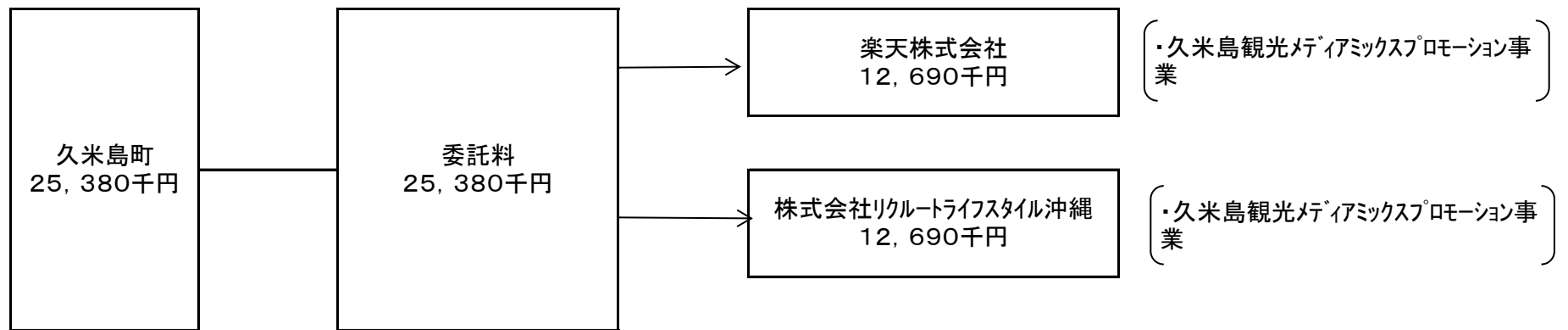
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・WEBやTVを活用し、プロモーションを行っているが、入域観光客数が伸び悩んでいる。	・久米島旅行未経験者およびリピーターの両方に来島を促すプロモーションを行い、情報発信を強化することで、入域観光客数の増加に繋げる。

今後の取り組み方針

・久米島旅行未経験者およびリピーターの両方に来島を促すために、ターゲット別にプロモーションを行い、WEB、テレビ、雑誌等様々な媒体を活用してプロモーションを行う。
また、認知度測定を目的とし、全国の20代～70代をターゲットにアンケート調査を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
25,380	25,380	20,304	5,076	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は観光振興に必要な額であり、不用額はなく適正な規模だった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	体験交流型観光商品開発販売促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	本町の観光入域客数を増加させ観光産業の振興を図るため、修学旅行受入促進のための旅行商品の開発、販売促進事業を実施する団体へ支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		8,689	18,963	18,260	10,101	
			8,689	18,963	17,947	9,038	
			0	0	▲ 313	▲ 1,063	
			0	0	0	0	
			8,689	18,963	17,947	9,038	
	B. 執行済額		7,697	15,217	16,294	8,047	
	うち交付金充当額		6,158	12,173	13,035	6,437	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		88.6%	80.2%	90.8%	89%	
予算の状況の説明		・当初計画していた事業を計画的に実施できず、1,063千円を減額した。 ・営業活動に関して旅行会社とのスケジュールが中々合わないことが本年は頻発した。そのため、主に営業経費の予算執行が計画を下回ってしまった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	体験プログラム・開発・改良件数	目標	(20件)	(10件)	(10件)	(10件)	
		実績	22件	10件	11件	22件	
	修学旅行の受入	目標	(-)	(-)	(-)	(10校)	
実績		-	-	-	7校		
達成状況説明	・修学旅行受入については、久米島の現在の受入民泊家庭数と修学旅行を希望する学校の生徒数のマッチングが上手くいかず、僅かながら目標値を達成できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	修学旅行入域者数	目標	()	(800人)	(700人)	(1,100人)	(1,300人)
		実績		668人	1,095人	751人	
	体験プログラム利用者数	目標	()	(1,200人)	(1,450人)	(1,500人)	(1,823人)
		実績		1,287人	1,464人	1,506人	
	【H30成果目標】 民泊事業者数:38戸以上		目標				38戸
	【H30成果目標】 修学旅行の受入学校数:11校以上		目標				11校
進捗状況説明	・平成28年度における、営業訪問、資料送付、さらには修学旅行担当者招聘により、平成29年度実績として県内小学校2校、県外高等学校7校の合計9校で751人が修学旅行を実施した。 ・体験プログラムは、新規プログラムの実施やこれまで人気のあるプログラムのブラッシュアップ等により個人観光客や旅行会社からのツアー客への人気も高くなり、結果、利用者数の目標値達成に至った。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機による団体客の渡航について、機材の収容人数や便数に問題があり、渡航が困難として誘致を逃す事例がある。特に県外からの修学旅行については航空機を利用したツアーが主流であり、町への移動手段確保が課題となっている。 ・民泊受入について、修学旅行生を対象とするものが主流であるが、今後は観光コンテンツのひとつとして一般観光客の民泊受入も拡大していくこととしている。しかしながら、受け入れる民家によってサービス面や衛生面などにばらつきがあり、クレームが発生するケースが見られる。 ・今年度は新規の簡易宿泊所登録がなかった。大規模な修学旅行受入にも対応できるよう、民泊受入先の確保が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機の代替手段としてフェリーの利用も提案し、団体客の町への移動手段を確保することで、誘致を図る必要がある。 ・一般観光客の受け入れにも対応できるよう、民泊の「質の確保」が必要である。 ・民泊受入が可能な民家の掘り起しと、簡易宿泊所登録へ向けた支援を行い、登録件数を増やしていく必要がある。また、現在登録している受入民家の稼働率を向上させる取組も必要である。

今後の取り組み方針
航空会社及びフェリー会社と連携し、来島する旅行者の移動手段の選択肢の幅を広げる方策を検討し実施していく。 ・法令を順守のうえ、衛生や防災対策の強化を行い、安心安全で質の高い民泊受入体制の構築を図るため、民家提供者等への情報提供、支援を行っていく。 ・民泊だけでなく、ホームビジット(観光客を家庭に招き、一緒に食事をとるなどの交流)やホテル・民宿との連携した住民負担の少ない民泊受入を検討するなどし、町民の観光客受入意識を高め、民泊受入に向けた積極的な民家提供を促す。

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	8,047	8,047	6,437	1,610	0
<pre> graph LR A[久米島町 8,047千円] --> B[委託料 8,047千円] B --> C["(社)久米島町観光協会 8,047千円"] C --- D["体験交流型観光商品開発販売促進に係る業務委託"] </pre>					

資金の流 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は特殊な業務内容であったため随意契約であったが、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、目標を達成するために必要とされる適正な規模になっている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	久米島観光リゾート開発基本計画策定事業					
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度 平成29年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	観光誘客に向けた施設整備等の各種施策につなげていくため、久米島町における観光の現状や課題を整理し、環境にも配慮した持続可能なリゾート開発基本計画を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(31年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		8,640				
			8,640				
			0				
			0				
			8,640				
		B. 執行済額	8,640				
		うち交付金充当額	6,912				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	100.0%				
	予算の状況の説明	・当初計画していた事業内容を予定通り実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鏡みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	リゾート開発計画の策定	目標	()	()	()	()	
		実績	リゾート開発計画の策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初の予定通り事業を行うことができた。 計画を策定するうえで、調査項目、調査内容の追加や変更等を行った。 外部や有識者で構成された、8名の計画検討委員会にて、今後の久米島町の観光ビジョンについて、議論することでより効果的な計画を策定することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
	久米島町における観光の現状、課題の把握	目標	()	()	()	()	()
		実績		観光の現状、課題の把握			
	誘致体制の強化	目標	()	()	()	()	()
		実績		誘致体制の強化			
	【H31成果目標】	リゾート開発基本計画に基づいた施策の実施	目標				
進捗状況説明	各方面からのヒアリング、アンケート等により、本町の観光の課題を把握することができた。 課題を基に、久米島独自の観光資源の掘り起こしを行い、本計画に盛り込んだことにより、より実現可能な観光開発の計画を策定することができた。						

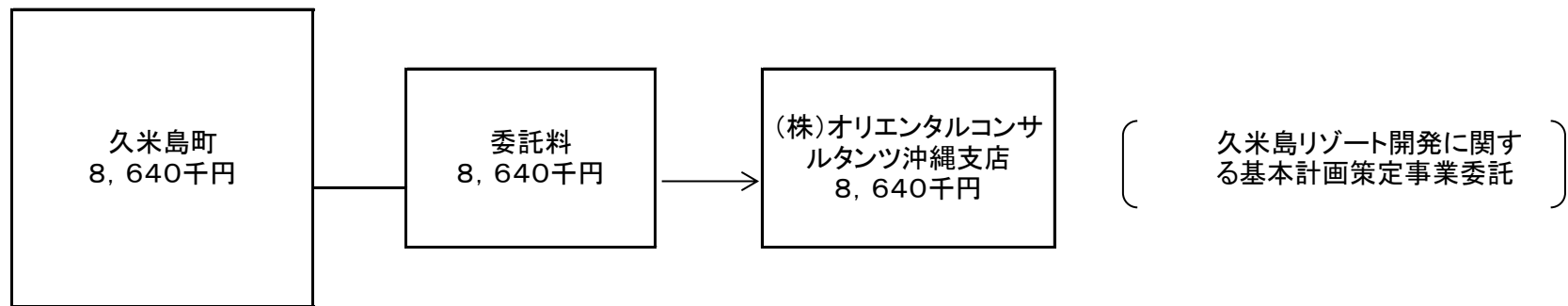
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本町は、沖縄県全体に比べ観光客の伸び率が低い状況にある。その現状と課題を外部や有識者を交え、議論し南国特有であるリゾートに特化した計画を策定した。外部や有識者で構成される検討委員会には観光協会会長、商工会会長等、町内の各団体長を充てており、本計画を実施するための共通認識を持つことができ、観光客誘致の体制の強化が図られた。	本計画を基に、新たな観光商品の開発、観光客の誘致手法等を確立し、観光客増に繋げていく。平成30年度には第2次久米島町観光振興基本計画(平成31年度～35年度)の策定を予定しており、本計画で明確となった新たな観光ビジョンを基に計画の策定、実施を行っていく。

今後の取り組み方針

本計画を基に、新たな観光商品の開発、観光客の誘致手法等を確立し、観光客増に繋げていく。平成30年度には第2次久米島町観光振興基本計画(平成31年度～35年度)の策定を予定しており、本計画で明確となった新たな観光ビジョンを基に計画の策定、実施を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,640	8,640	6,912	1,728	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、プロポーザル方式にて選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、目標を達成するために必要とされる適正なものとなっている。 ○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのかについて、額の確定時において支出に関する書類等により確認し適正であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

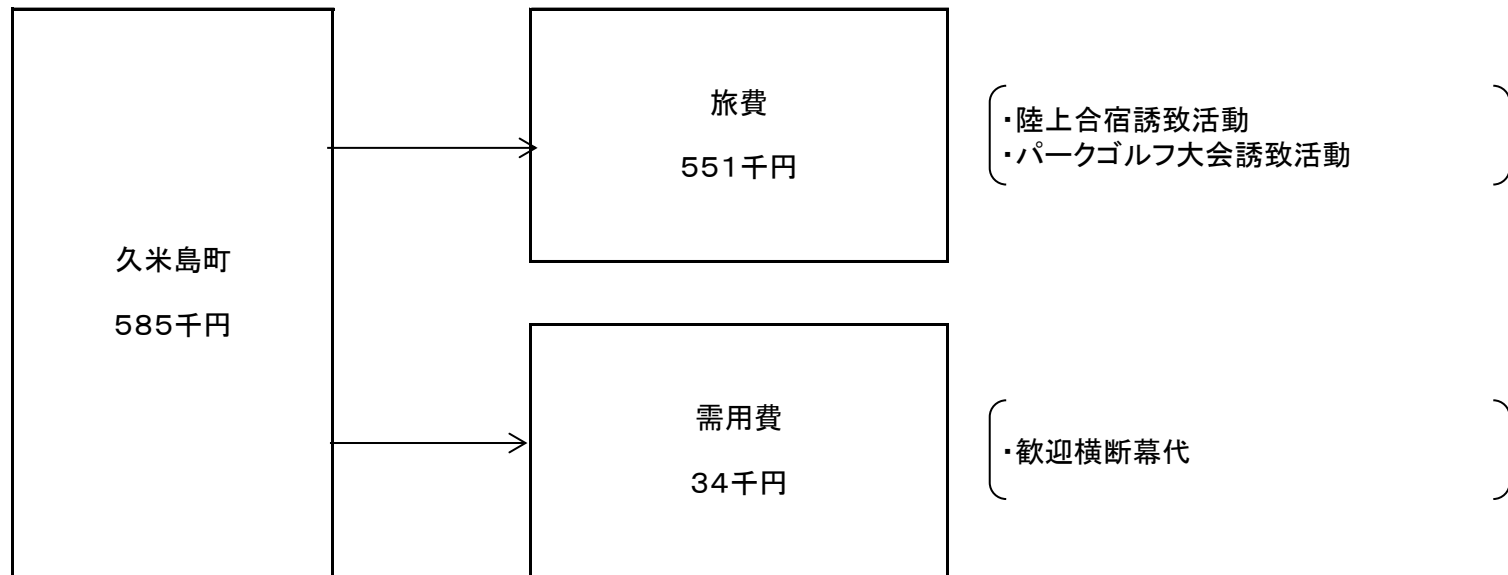
市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	スポーツ合宿等誘致事業					
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度 平成26~33年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	観光客が減少する冬季の誘客促進を図るため、スポーツ合宿の誘致を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		1,500	1,704	1,704	1,054	
			3,152	1,704	1,615	882	
			1,652	0	▲ 89	▲ 172	
			0	0	0	0	
			3,152	1,704	1,615	882	
	B. 執行済額		3,152	240	475	585	
	うち交付金充当額		2,522	191	379	468	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	14.1%	29.4%	66.3%	
予算の状況の説明		当初計画していた陸上合宿関係者の招聘事業が実施できず172千円を減額した。不用額297千円については、陸上関係者へ招聘の呼びかけをしたが実施に至らなかったことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	野球・陸上合宿誘致	目標	(陸上合宿誘致)	(陸上合宿誘致)	(陸上合宿誘致)	(陸上合宿誘致)	
		実績	陸上合宿誘致	陸上合宿誘致	陸上合宿誘致	誘致活動実施	
	パークゴルフ大会・愛好家誘致	目標	(パークゴルフ大会誘致)	(パークゴルフ大会誘致)	(パークゴルフ大会誘致・愛好者誘致)	(パークゴルフ大会誘致・愛好者誘致)	
		実績	パークゴルフ大会誘致	パークゴルフ大会誘致	パークゴルフ大会誘致・愛好者誘致	パークゴルフ大会誘致・愛好者誘致	
達成状況説明	陸上合宿誘致については、県外高校駅伝の監督やコーチ等へ、また、マラソン博覧会等で参加者に直接アプローチし誘致活動及び招聘事業の案内を行った。 パークゴルフ愛好者誘致については施設管理者やパークゴルフ場担当者と連携して誘致活動を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	陸上合宿	目標	()	(4件)	(4件)	(4件)	()
		実績		4件	1件(40人)	0件	
	大学野球合宿	目標	()	(-)	(6件)	(6件)	()
		実績		-	6件	6件	
	パークゴルフ大会	目標	()	(1件 島外100人)	(2件 島外160人)	(2件 島外160人)	()
		実績		2件 島外180名	2件 島外272名	2件 島外240名	
	パークゴルフ愛好者(観光客)	目標	()	(-)	(1,800人)	(1,800人)	()
		実績		-	1,800人	1,800人	
	進捗状況説明	陸上合宿は目標は4件であったが、各実業団からは陸上競技場を望む声が大きく、これまで合宿を実施していた実業団の合宿場所変更があったため0件となった。 パークゴルフ大会は全国大会を2大会開催し、島外参加者は目標を80名上回る240名であった。 パークゴルフ大会誘致、パークゴルフ愛好者への誘客活動に力を入れたことで、パークゴルフを目的に来島する方も増え目標を達成することができた。 大学野球合宿は目標の6件(継続5校、新規1校)を達成することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 陸上合宿の招聘について、本町が合宿地に選ばれなかった理由としては、陸上競技場がないためという意見が多かった。なお、陸上競技場があれば実施したいというチームが多く、その上クロスカントリー場があれば更に可能性が広がるという意見が多かった。一方で、時期によってはロードのみで十分との意見もあった。 パークゴルフ愛好者の誘致については順調に推移しており、冬季における重要な誘客コンテンツとなる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上合宿誘致活動については陸上競技場を重視しない実業団や、時期的にロードのみを活用している実業団を調査し、対象となる実業団に対して合宿の招聘を行っていく。また、要望の多かった陸上競技場については担当課と意見交換を実施し、建設計画の可能性を検討していく必要がある。 H30年度にはパークゴルフ場のコース増設が予定されており、コース増設を更なるパークゴルフ愛好者の誘客につなげていく必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施できなかった陸上合宿の招聘については、実業団の要望を確認しながら町内で可能な陸上合宿のあり方を検討・整理し、合宿地を変更する実業団等を中心に引き続きPRしていく。 パークゴルフ愛好者誘客については施設管理者やパークゴルフ場担当者、観光協会と連携して北海道を中心とした盛んな地域に対してPRを実施し、誘客を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
585	585	468	117	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先は、実績を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、目標を達成するために必要とされる適正なものとなっている。 ○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのかについて、額の確定時において支出に関する書類等により確認し適正であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

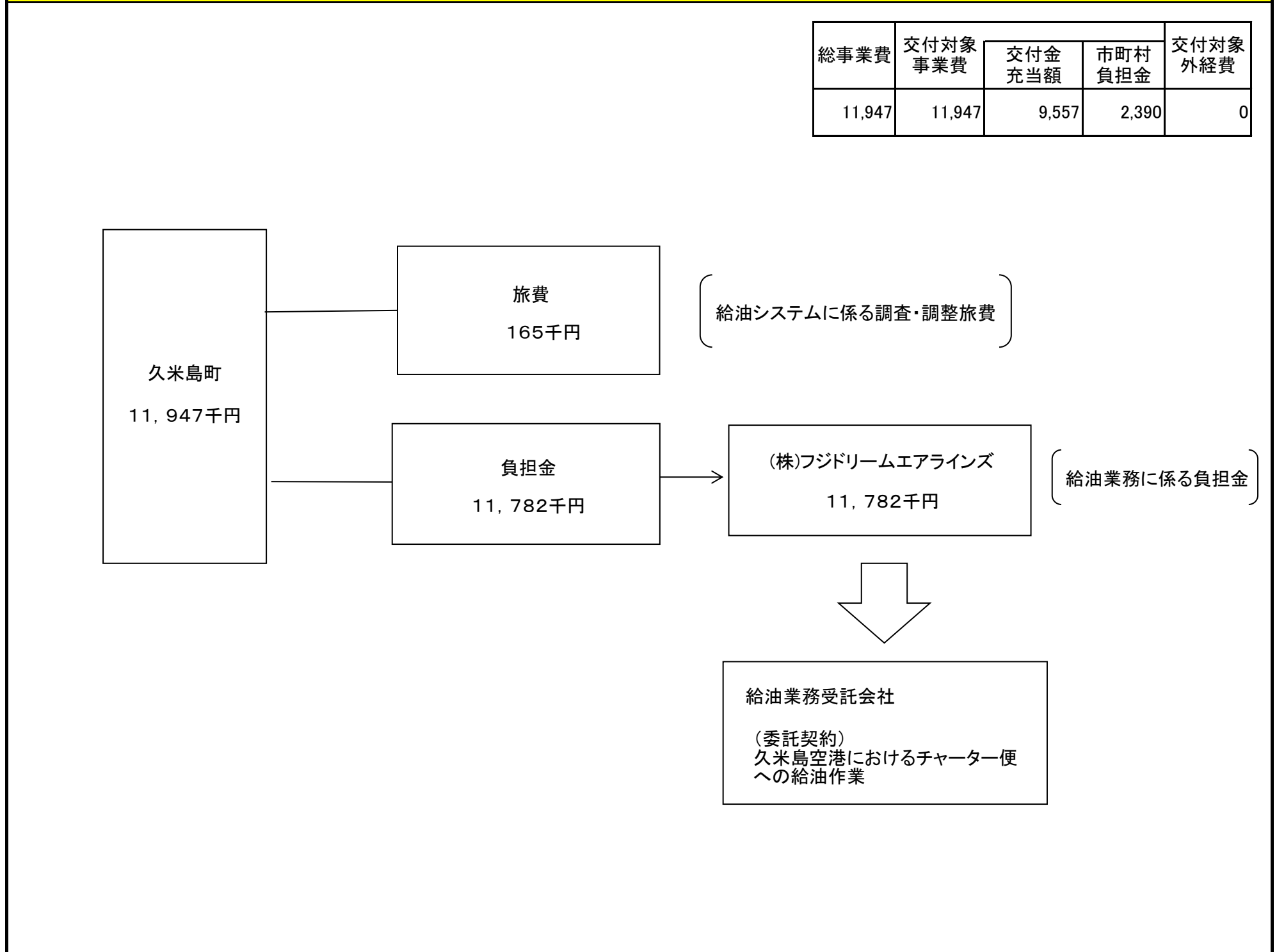
市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	航空路線拡充対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-(ウ)	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化	
事業内容	久米島への航空路線誘致を図るため、久米島空港における給油体制の整備及び航空会社への誘致活動を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,683	18,064	8,779	19,604	
		(b) 予算現額	8,596	16,986	17,613	12,436	
		(c) 増減額(b-a)	4,913	▲ 1,078	8,834	▲ 7,168	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	8,596	16,986	17,613	12,436	
	B. 執行済額		8,596	16,449	16,762	11,947	
	うち交付金充当額		6,877	13,159	13,409	9,557	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	96.8%	95.2%	96.1%	
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・運行回数が当初予定していた便数より減った(60便→50便)ため、7,168千円減額した。 ・不用額については、給油施設の視察調査未実施(旅費)によるものである。 					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	チャーター便実現の為、久米島空港での給油を行う	目標	(給油体制の整備)	(給油体制の整備)	(給油体制の整備)	(給油体制の整備)	
		実績	給油体制の整備	給油体制の整備	給油体制の整備	給油体制の整備	
	新規航空会社の誘致及び誘致に係る調査及び活動を行う	目標	(調査活動)	(調査活動)	(調査活動)	(調査活動)	
		実績	1回	4回	2回	1回	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島空港には給油施設が無い為、チャーター便の誘致には給油体制を整える必要があり、給油車の賃借と燃料を調達し久米島空港にて配備した。 ・新規航空会社の誘致活動及び調査活動を4回予定していたが、誘致活動1回のみの実施となった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(33年度)
	チャーター便運航数	目標	()	(38便)	(114便)	(60便)	(60便)
		実績		14便	38便	29便	
	要請及び調査活動	目標	()	(1回)	(4回)	(4回)	()
		実績		調査活動4回	・調査活動2回 ・要請活動2回	・調査活動0回 ・要請活動1回	
	新規航空会社の誘致体制の確立	目標	()	(1社)	(1社)	(1社)	(1社)
実績			2社	2社	2社		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 【チャーター便運行数】 ・H29年11月27日~H30年2月22日までの間、東北地方をはじめ、5地区14県(福島・仙台・山形・新潟・小松・静岡・松本・岡山・米子・広島・出雲・松山・高知・高松)から29便が就航したが目標に大幅に届かなかった。 【要請及び調査活動・新規航空会社誘致体制の確立】 ・要請及び調査活動については、目標を達成できなかった。 ・新規航空会社誘致のため、株式会社ジェイエアとピーチ・アビエーション株式会社の2社を訪問し交渉を行った。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【チャーター便運行数】 ・運行数が目標数を達成できなかったのは、委託先のフジドリームエアラインズの機材繰りの調整がつかなかったこと及び乗務員の確保ができなかったことが要因であると考えられる。	【チャーター便運行数】 ・1社ではチャーター便運航数の達成が困難な場合があるため、複数の航空会社の誘致に取り組む必要がある。
	【要請及び調査活動・新規航空会社誘致体制の確立】 ・要請及び調査活動が目標に届かなかった原因として、訪問予定先との日程調整がつかず実施できなかったことだと考えられる。 ・路線拡充には給油施設の整備が絶対条件である。	【要請及び調査活動・新規航空会社誘致体制の確立】 ・要請及び調査活動を早期に計画し、目標とする活動回数の実施に取り組む必要がある。 ・給油施設の整備に向けた課題を整理し、整備が可能となる環境を整える必要がある。

今後の取り組み方針

・現在チャーター便を就航している以外の航空会社の誘致に取り組む。
 ・要請及び調査活動を早期に計画し、新規航空会社の誘致体制確立に向けて取り組む。
 ・給油施設の整備については、運行便数を増やし、燃料供給を増やすことが必須であることから、チャーター便数の就航実績を増やし、定期路線化に結び付け、給油施設の整備に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については費用負担の覚書締結を交わし選定しており妥当であったと考えている。 ○予算規模については、事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目・使途においては、事業目的の観点から精算時に細かく精査しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	複合型防災・地域交流拠点施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	平成29~31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 III-9		
事業内容	災害時は、住民及び観光客等が安全に避難生活をおくれる避難所として、平時は地域の交流拠点として利用できる施設の整備を行う。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(32年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,000				
		(b) 予算現額	18,850				
		(c) 増減額(b-a)	1,850				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計(b+d)	18,850				
	B. 執行済額		18,850				
	うち交付金充当額		15,080				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		消費税分未計上のため172千円増額を行った。土質調査を2箇所行ったが、土質にばらつきがあるため、建築基礎及び擁壁基礎の検討に不十分であることから1箇所追加したことにより1,678千円増額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	複合型防災・地域交流拠点施設基本設計の策定	目標	(基本設計の策定)	()	()	()	
		実績	基本設計の策定完了				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	土質調査を2箇所設計していたが、十分な調査結果が得られず、調査箇所を追加することとなったが、履行期間内に基本設計を策定することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(32年度)
	基本設計の完了	目標	()	(基本設計の完了)	()	()	()
		実績		基本設計の完了			
	【H32成果目標】(災害時) ・施設を利用した避難訓練(2回/年(うち観光シーズンの実施1回))を実施する ・安全・確実に避難できたか(80%以上)を訓練参加者に対するアンケート調査により確認するなどし、当該施設のあり方について検証する。	目標					2回 80%
		【H32成果目標】(平常時) ・施設の年間利用者数 延べ3,800人以上(図書館のみの利用は除く) ・図書館の年間貸出冊数44,300点以上	目標				
進捗状況説明	複合型防災・地域交流拠点施設基本設計業務委託の発注及び業務委託を完了した。						

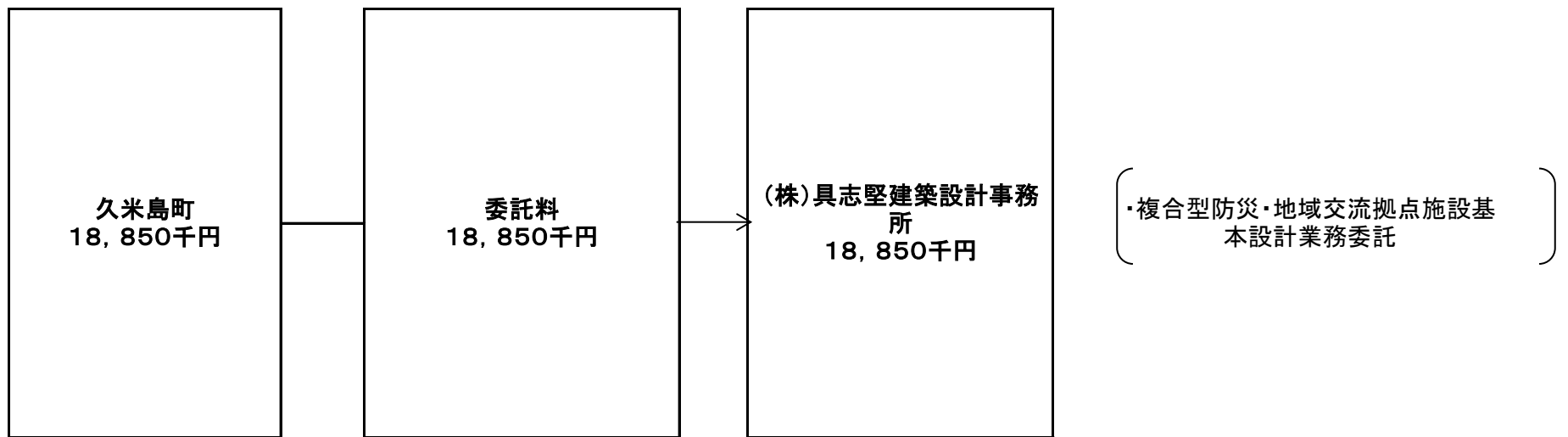
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	①「安心・安全な場所をつくる」 ・避難場所としての機能を備え、安心安全に避難が行える環境の整備が必要である。 ②「親しみやすく使いやすい場所をつくる」 ・生涯学習機能及び図書機能の充実や周辺環境との調和を図り、気軽に訪れたくなる場の創出をしていく必要がある。	①嘉手苅地区及び儀間地区の避難所機能のほか、隣接する公立久米島病院との医療連携施設としても期待される。災害により重症患者が増加し、病院内で収容が難しい場合に、軽傷者等の一時収容先として機能できる設備としていきたい。 ②1階が生涯学習機能、2、3階が図書館機能を有する施設である。1階は主に集会所として、地域のサークル活動や行政が使用する会議等に使用する予定。2、3階は地域の子どもたちを対象とした自主学习室としての使用も予定している。

今後の取り組み方針

災害時における周辺地域を対象とした避難所機能や備蓄機能・近接する公立久米島病院と連携した医療連携施設といった、災害時の拠点づくりを目的としている。平常時は、生涯学習機能及び図書館機能を付帯させることで、施設の有効利用を図っていく。
 H30 建築・用地実施設計及び用地造成工事
 H31 建築工事・備品購入
 H32 供用開始

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,850	18,850	15,080	3,770	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	火葬場・葬祭場施設整備事業					
担当部課名	環境保全課	事業実施(予定)年度 平成28～29年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉におけるサービスの向上					
		沖縄振興基本方針該当箇所 III-9					
事業内容	葬儀に係る町民負担の軽減を図るため、火葬場及び葬祭場を整備する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(30年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	28年度(繰越)	29年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	521,772	—	116,044		
		(b) 予算現額	542,257	—	116,044		
		(c) 増減額(b-a)	20,485	—	0		
		(d) 繰越額	0	446,653	0		
		A. 計(b+d)	542,257	446,653	116,044		
	B. 執行済額		95,602	393,143	113,149		
	うち交付金充当額		76,482	314,515	90,519		
	次年度繰越額		446,653	0	0		
	執行率(%) (B/A)		18%	88%	98%		
予算の状況の説明		予定していた駐車場、外構工事を年度末までにすべて完了、また、葬祭場備品に関してもすべて納入を完了した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	・火葬場・葬祭場駐車場、外構工事	目標	()	(駐車場、外構工事)	()	()	
		実績		駐車場、外構工事			
	・火葬場・葬祭場備品購入	目標	()	(備品購入)	()	()	
		実績		備品購入			
達成状況説明	駐車場・外構工事を予定どおり発注し年度末までに完了、葬祭場備品に関してもすべて納入を完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
	・駐車場、外構工事の完了	目標	()	()	(駐車場、外構工事の完了)	()	()
		実績			駐車場、外構工事の完了		
	・備品の購入	目標	()	()	(備品の購入)	()	()
		実績			備品の購入		
	【H30成果目標】葬祭場利用件数		目標				45件
進捗状況説明	当初計画とおり、予定していた委託業務・工事をすべて発注・完了し、目標は達成できた。						

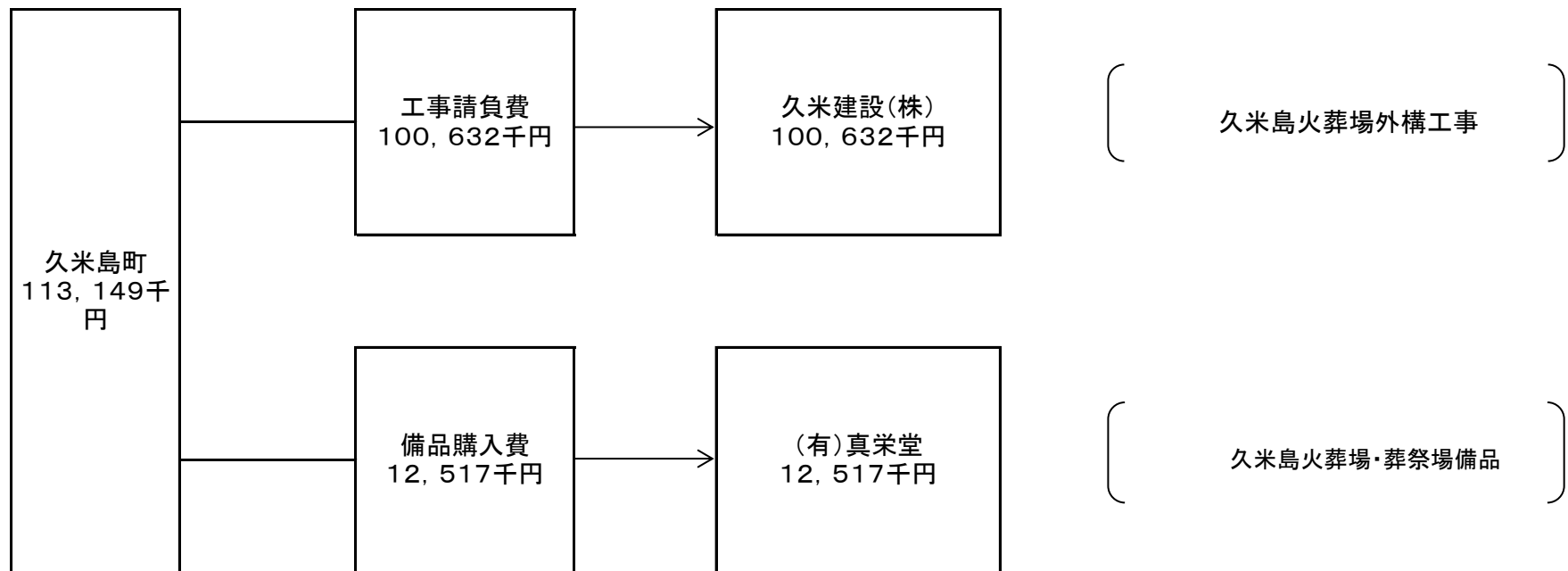
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	施設の整備については、目標どおり実施したことから、今後は、町民に施設を有効活用してもらうことが課題となる。	新たに整備された葬祭場において葬儀を執り行うことに対する町民の心理的な支障や不安が生じないように配慮する必要がある。

今後の取り組み方針

・施設の利用方法などを丁寧に広報・案内し、町民が利用しやすい環境づくりに努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
113,149	113,149	90,519	22,630	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者・施工業者は指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な予算規模であった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	防災情報収集発信体制整備事業					
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度 平成29~32年度					
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-3-(11)-イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉におけるサービスの向上					
		沖縄振興基本方針該当箇所 III-9					
事業内容	災害に強い島「安心安全な島」づくりをめざし、今後起こりうる地震や津波などの災害発生時に、迅速かつ的確な対応を図るため、多様な情報収集及び情報発信が可能な体制を構築し、災害対応等の諸活動を円滑に推進するための仕組みを構築する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,650				
		(b) 予算現額	8,465				
		(c) 増減額(b-a)	▲185				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計(b+d)	8,465				
	B. 執行済額		8,424				
	うち交付金充当額		6,739				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100%				
予算の状況の説明		・当初予算からの入札残が出たため、12月補正にて▲185千円減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	久米島町防災情報収集発信体制基本計画の策定	目標	(基本計画の策定)	()	()	()	
		実績	基本計画の策定完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	防災情報収集・発信体制基本計画の策定を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	・久米島町防災情報収集発信体制基本計画の策定	目標	()	(基本計画の策定完了)	()	()	()
		実績		基本計画の策定完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・久米島町の規模や、地理的条件、社会条件等をふまえ、災害時の情報収集・発信体制における、問題と課題について調査を行い、防災情報収集・発信体制基本計画の策定を行った。今後においては機器の整備に向けて準備を進めていく。					

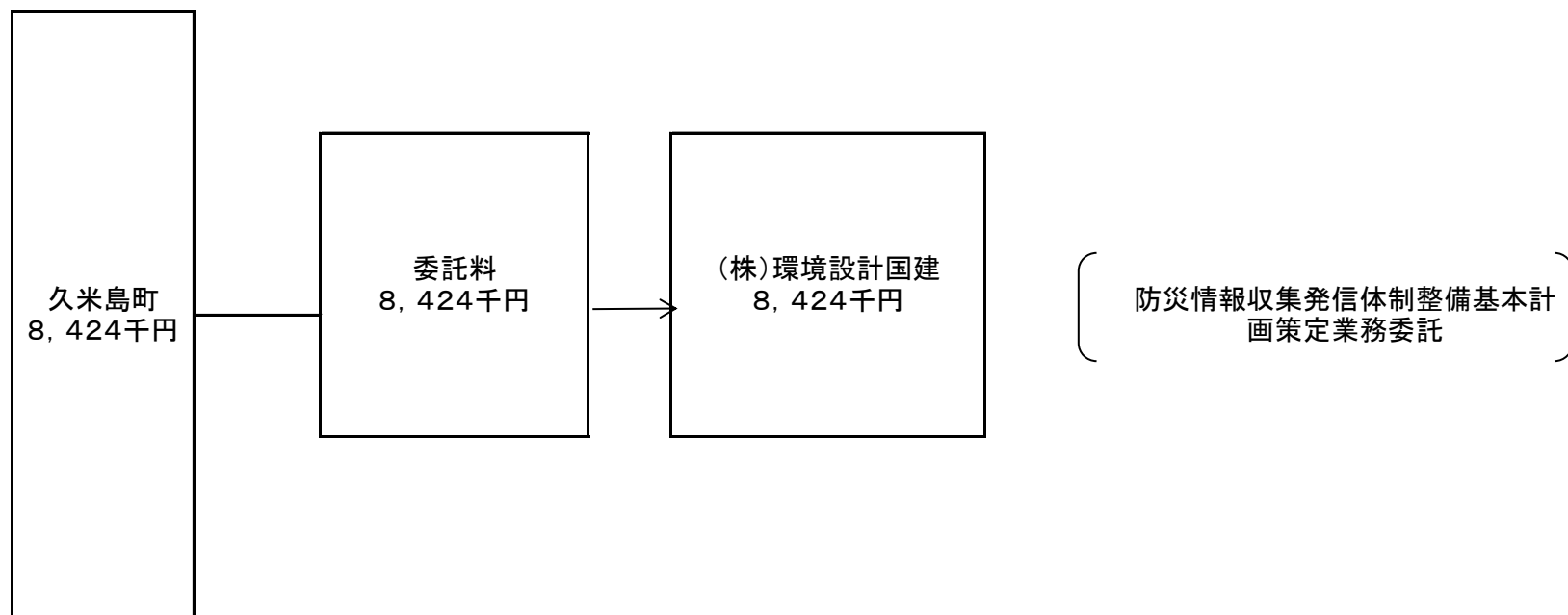
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【情報収集発信体制の課題】</p> <p>①現状の情報の収集発信について、登録制メール、エリアメール、防災行政無線、FM放送、気象情報の収集、避難勧告・指示等について、それぞれ別々に情報の収集・発信を行っているため、少ない人員でかなりの時間を要している。</p> <p>また、外国人の交流が増え多言語に対応する事が課題となっている。</p> <p>②防災無線の聞き取れない地域がある。(全く聞こえない、あまり聞こえない合わせて37%)</p>	<p>①災害情報の収集発信システムの拡充により、災害時の情報発信が、1回の操作で可能となり、全ての人に迅速な情報の伝達ができる。</p> <p>②防災無線の聞き取れない地域にあっては、防災無線のデジタル化と併せて、高性能スピーカーの導入、屋外子局の増設、個別受信機等の設置により聞こえない地域の解消が図られる。</p>

今後の取り組み方針

・防災情報収集発信体制基本計画を元に、実施設計・機器の整備を行い、今後起こりうる地震・津波などの自然災害に対し、町民、観光客、外国人など全ての人に、迅速かつ的確な情報の収集・発信体制を構築する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,424	8,424	6,739	1,685	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	沖縄らしい風景づくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり	
事業内容	観光地としての魅力的な景観形成を図るため、町景観条例に基づく景観形成に取り組む団体への活動支援及び個人が実施する屋根等の外観の景観形成に有効な部分の新設及び改良に要する経費の一部を支援する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,100	4,700	4,600	4,600	2,600
		(b) 予算現額	4,662	2,617	2,762	600	600
		(c) 増減額(b-a)	562	▲2,083	▲1,838	▲4,000	▲2,000
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	4,662	2,617	2,762	600	600
	B. 執行済額		4,662	2,616	2,300	598	600
	うち交付金充当額		3,729	2,093	1,840	478	480
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	83.3%	99.7%	100.0%
予算の状況の説明		予算減額▲2,000千円は景観形成重点地区における目標件数が1件に対し、申込件数が0件であったことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	景観活動団体支援3団体	目標	(2団体)	(3団体)	(3団体)	(3団体)	
		実績	2団体	2団体	3団体	3団体	
	景観形成支援1戸	目標	(2戸)	(2戸)	(2戸)	(1戸)	
		実績	1戸	1戸	0戸	0戸	
達成状況説明	・景観形成助成として、当初計画では景観形成重点地区から1戸の赤瓦屋根葺き替え助成を予定していたが、申込みがなかったため目標を達成できなかった。 ・景観形成助成への問い合わせ等は多数あったが、町が指定する景観重点地区外であったことや、町内における家屋の新築または改築等が減少したことが要因であると思われる。 ・景観活動助成金については、これまでの地域等での景観活動に対する取組実績等から活動団体に登録された3団体に対し助成金を交付した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	景観活動団体の支援	目標	()	(実施)	(3団体)	(3団体)	()
		実績		2団体	3団体	3団体	
	景観形成の推進	目標	()	(実施)	(2戸)	(1戸)	()
		実績		1戸	0戸	0戸	
	進捗状況説明	・景観形成助成については、当初目標1戸に対し、景観重点地区5地区からの申込みが無かったため目標を達成できなかった。町内における、家屋の新築、改築等が減少したことが要因であると考えられる。 ・景観活動団体助成については、審査の結果3団体への助成を行った。 ・助成団体のこれまでの活動実績が地域住民からも評価され、徐々に申込み団体も増加していることから、引き続き、周知徹底を図り新規助成団体を増やせるような取組を行う。					

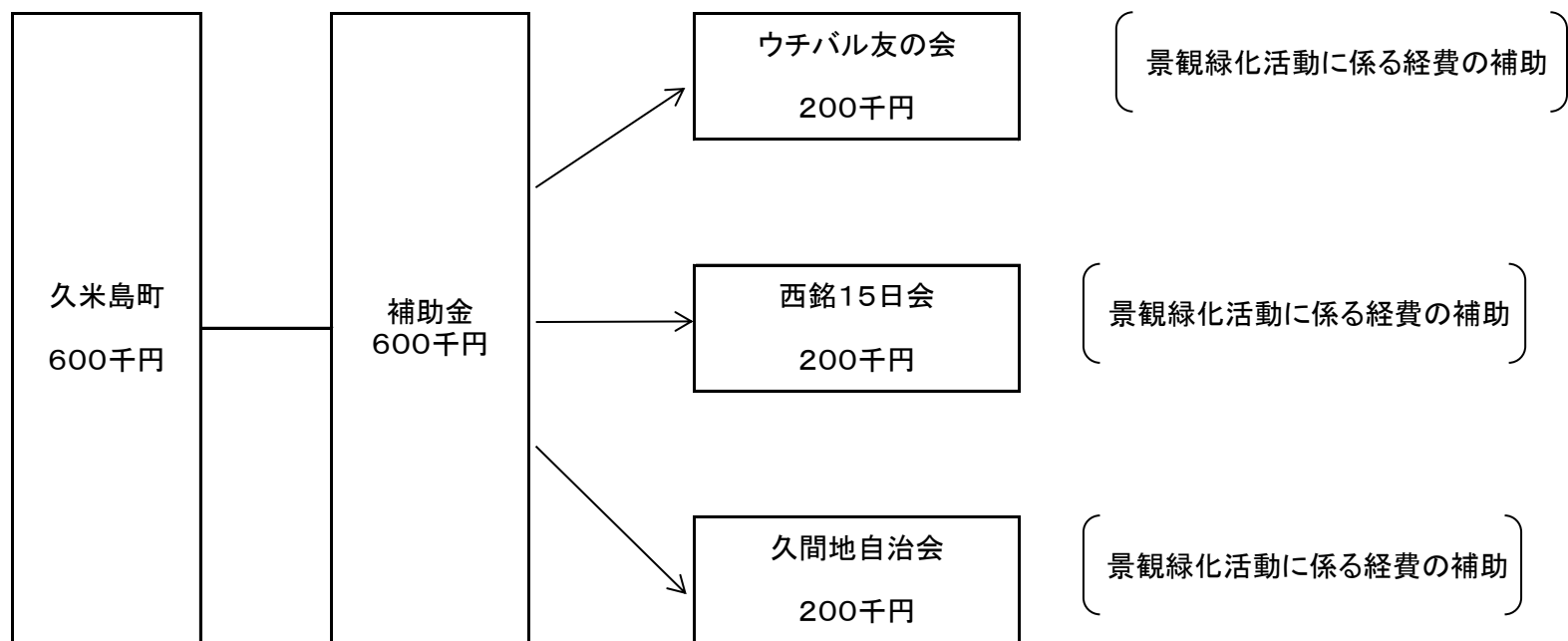
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・景観団体助成について、継続助成している団体のこれまでの活動・実績を評価しているが、新規団体を取り込むことが課題となっている。 ・景観形成支援について、目標達成が出来なかった要因として助成対象地区(重点地区)での赤瓦家屋の新築や改修等の減少が挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優良活動団体の実績を他の団体へもPRし、新規団体を取り込む必要がある。 ・重点地区を対象とした周知方法(町広報誌掲載並びにFMラジオでの案内等)を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・景観団体助成について、町のホームページや広報誌などの媒体を活用し、優良活動団体の実績をPRすることで新規団体の取り込みにつなげ、本町の自然・歴史・文化が織りなす美しい風景を維持していく。
 ・景観形成支援について、町の広報やFMラジオでの案内等をとおして周知を行い、重点地区における赤瓦家屋の新築や改修等を促進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
600	600	480	120	0



資金の流 れ、費 目・ 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金の交付先については、交付要件に基づくものであり、妥当であるとする。 ○予算規模は、目標を達成するために必要とされる適正なものとなっている。 ○受益者負担については、交付要綱に基づくものであり、妥当であるとする。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	文化遺産保存活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	久米島博物館	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	本町の歴史・文化の継承を図るため、町内に残されている歴史資料の修復を行い、博物館資料として活用する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,124	16,519	9,744	10,050	
		(b) 予算現額	7,835	15,957	9,744	9,641	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 289	▲ 562	0	▲ 409	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	7,835	15,957	9,744	9,641	
	B. 執行済額		7,835	15,956	9,734	9,641	
	うち交付金充当額		6,268	12,765	7,786	7,712	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	
予算の状況の説明		・予算減額409千円は、入札残によるものである。 ・業務内容の変更はなく、事業計画どおりに執行を行い適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	古文書の修復 件数	目標	(110件)	(160件)	(145件)	(230件)	
		実績	173件	37件	145件	230件	
	翻刻・口語訳 件数	目標	(52件)	(50件)	(36件)	(30件)	
		実績	52件	50件	36件	30件	
達成状況説明	・事業実施により古文書資料230件の修復及び古文書資料を30件の翻刻を行い、目標数値を達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	古文書の修復の割合 (1,625件中706件(累計)の修復)	目標	()	(28%)	(29%)	(43%)	()
		実績		20.5%	29.3%	43.4%	
	翻刻・口語訳の割合 (288件《1,625件中、重要資料数》中168件(累計)の修復)	目標	()	(35%)	(47%)	(58%)	()
		実績		35.4%	47.9%	58.3%	
	【H30成果目標】 修復した資料を活用した企画展の来場者数 400人以上		目標				400人
進捗状況説明	・事業実施により古文書資料230件の修復及び古文書資料を30件の翻刻を行い、目標数値を達成できた。						

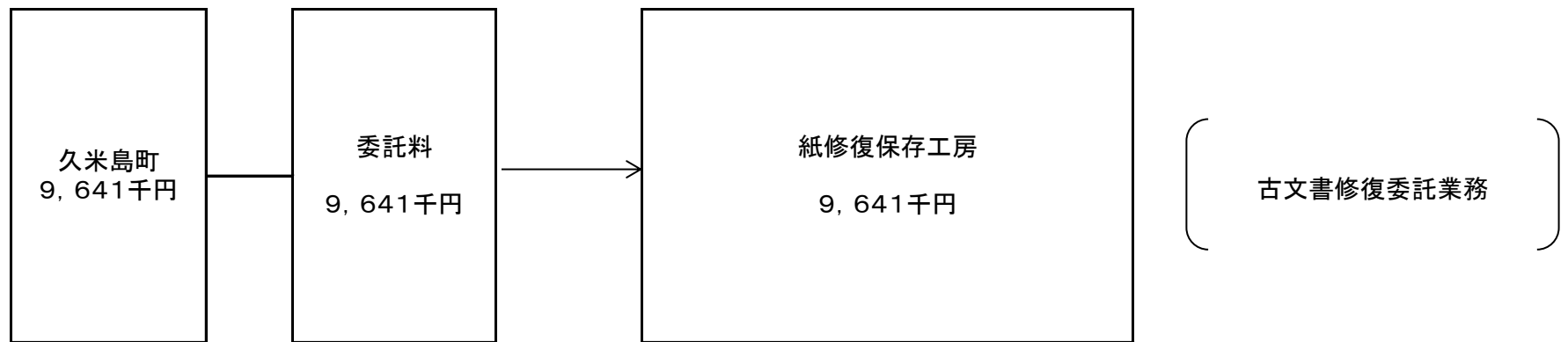
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 古文書の修復について、およそ半分が完了したが、残りは明治期の文書が増えてくるため、これまで行ってきた和紙中心の修復から、洋紙や和紙もどき(洋紙と和紙の混ぜた紙)の修復が増える見込みである。 修復が完了した古文書が増えてきたことから、利活用方法の検討が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 洋紙や和紙もどきが用いられた古文書について、修復方法等の検討が必要である。 修復が完了した古文書について、歴史・文化の継承に向けた効果的な利活用方法を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・有識者から意見を徴し、洋紙や和紙もどきが用いられた古文書に適した修復方法の検討を行う。
 ・修復が完了した古文書については、適正な保存・管理に努めつつ、展示会の開催や学術利用などにより活用を進めながら、歴史・文化の継承に向けた効果的な利活用方法を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,641	9,641	7,712	1,929	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○古文書修復委託は特殊な業務内容であったため随意契約であったが、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○平成33年度までに目標を達成するための必要な事業規模を算出し、事業を実施した。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③	久米島現代版組踊り創作事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり	
事業内容	中高生及び町民への歴史・文化の継承を図るため、中高生による久米島の歴史的遺産を題材とした現代版組踊りの創作・実演を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,989	6,639	6,962	6,500	6,169
		(b) 予算現額	9,290	6,639	6,962	6,500	7,062
		(c) 増減額(b-a)	1,301	0	0	0	893
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	9,290	6,639	6,962	6,500	7,062
	B. 執行済額		9,290	6,638	6,961	6,484	6,773
	うち交付金充当額		7,432	5,310	5,568	5,187	5,418
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.8%	95.9%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画していた事業に加え、成果目標を達成するため島外公演を追加実施することにより、予算893千円を増額した。 ・不用額が発生しているが、経費精算による委託費の減である。 ・事業内容すべてを計画どおりに執行できたと考えている。 					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	若い世代(中高生)による創作現代版の組踊公演	目標	(40から50名参加)	(40から50名参加)	(40から50名参加)	(40名)	
		実績	41名	39名	37名	36名	
	自主開催に向けた指導者の育成	目標	()	()	()	(2名)	
実績					1名		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生、中学生計36名によって、9月に昼、夜2回の公演を開催した。また、さらなる観光資源の創出を図るため、12月に島外において2日間公演を実施した。 ・活動目標の参加人数は年々減少している状況のため今年度の目標を下げていたが、当初見込んでいた新入部員が予定よりも少なく、昨年度の卒業生が多かったため、目標に足りない36名での公演となった。 ・今年度より取り組んでいる指導者の育成は、目標にわずかに届かなかったものの、1名が指導スキルを習得した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	ふるさとの歴史や文化を地域の人々が再発見し、その誇りと魅力を自発的に発信していく新たな歴史的文化的観光資源を創出する	目標	()	(観光資源の創出)	(観光資源の創出)	(観光資源の創出)	()
		実績		観光資源の創出	観光資源の創出	観光資源の創出	
	公演回数	目標	()	(-)	(15回)	(10回)	()
		実績		-	12回	10回	
【H30成果目標】参加者(演者)及び来場者へのアンケートで、歴史・文化に対して理解が深まった(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		目標				80%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島の中高生36名による、歴史的遺産にスポットをあてた創作現代版組踊りを公演を実施し、9月の島内公演では町民等620名が観覧し高い評価を得た。 ・毎年出演している町内の祭りなど島外から観光客が多数訪れる催しに出演したほか、12月に実施した島外公演にて2日間のべ600名が観覧し、ふるさとの歴史的文化的魅力をアピールすることにより観光資源創出のきっかけとなる取り組みができた。 ・イベントへの出演依頼も積極的に受けることにより、公演回数も10回と目標を達成することができた。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・活動人数について目標を下回った要因としては、島内における生徒全体数も年々少なくなってきていること、数年前に比べて生徒における勉学の取り組みや部活動が活発になっており、参加者の大幅な増についてはなかなか期待ができない。 ・指導者の育成については、対象者の都合もなかなか稽古等に参加することができない場合がある。 ・島外公演において、島内での公演に比べ歴史的文化的魅力を島外へ発信することができたが、費用や運営体制における課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくなってきている生徒数はどうすることもできないため、参加対象の枠を拡大するなどの検討を行っていく。 ・卒業したOB・OGが近く、島に戻って指導者になることを想定した取り組み、又は過去に携わった人材の活用など将来を見据えた計画をしていく。 ・活動を運営、支援する組織を強化し、安定した舞台公演や島外公演が実現できるよう計画を立てる。

今後の取り組み方針

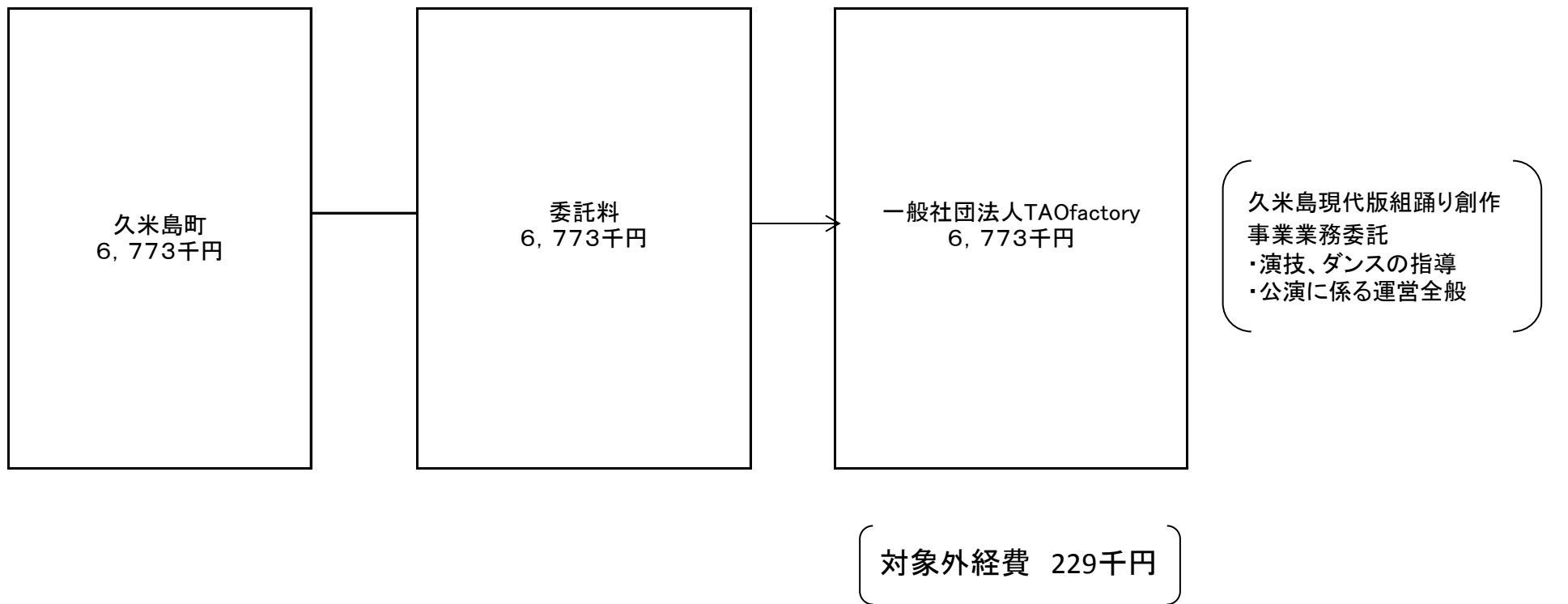
・参加対象を引き下げ、小学生から参加できるような内容の検討、取り組みをする。また、参加者に対し、新たな活動(例:ゆかりの地まわり、歴史勉強会)をすることにより、歴史文化に興味を持ってもらい外部に発信することで、新メンバー確保に繋げる。

・OB・OGや過去に携わった人材が指導者として再度関わりを持てるよう、OB・OGの交流会を企画したり関係者を対象とした情報発信を行うなど、指導者確保に向けた取組を行う。

・運営組織を強化する目的から、諸課題を共有し、将来を見据えた計画の策定に向けて、年間を通して会議を開催する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,002	6,773	5,418	1,355	229



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託は特殊な業務内容(演技指導から運営までできる県内唯一の事業者)であったため、随意契約であったが、組織、実績等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については、額の確定時において、実績書類により確認しており、目的に即し必要なものと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	英語指導員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	
事業内容	児童の英語への興味・関心を高めるため、外国語活動及び国際理解教育を支援する英語指導員を小学校に配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,482	2,568	2,152	2,119	1,911
		(b) 予算現額	2,482	2,120	2,152	2,119	1,911
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 448	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	2,482	2,120	2,152	2,119	1,911
	B. 執行済額	2,095	2,119	1,961	2,118	1,751	
	うち交付金充当額	1,676	1,695	1,568	1,472	1,400	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	84.4%	100.0%	91.1%	100.0%	91.6%	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	英語指導員配置数:小学校1名 小学校3年生から6年生(3,4年生120時間、5,6年生210時間)で実施する。		目標 (小学校1名)	(小学校1名)	(小学校1名)	(小学校1名)	
			実績 小学校1名	小学校1名	小学校1名	小学校1名	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	小学校3年生~小学校6年生において予定通り実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	英語指導員の配置 小学校:1名 町内全6小学校の児童が英語を活用してコミュニケーション力の向上		目標 ()	(コミュニケーション力の向上)	(コミュニケーション力の向上)	(コミュニケーション力の向上)	()
			実績	コミュニケーション力の向上	コミュニケーション力の向上	コミュニケーション力の向上	
	【H30成果目標】 英語に対する興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、児童へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標				80%
	進捗状況説明	中学年においては、英語を使った簡単な会話(名前や出身地、好きなものを尋ねる)ができるようになった。1~99までの数字を英語で言えるようになり、年齢や時刻、日付を英語で伝えたり、尋ねたりできるようになった。 高学年については、授業で学んだ英単語や表現を使って、自分の考えや意見を、寸劇やプレゼンテーションで発表できるようになった。(例:昔話を英語で演じる。久米島を英語で紹介する。)					

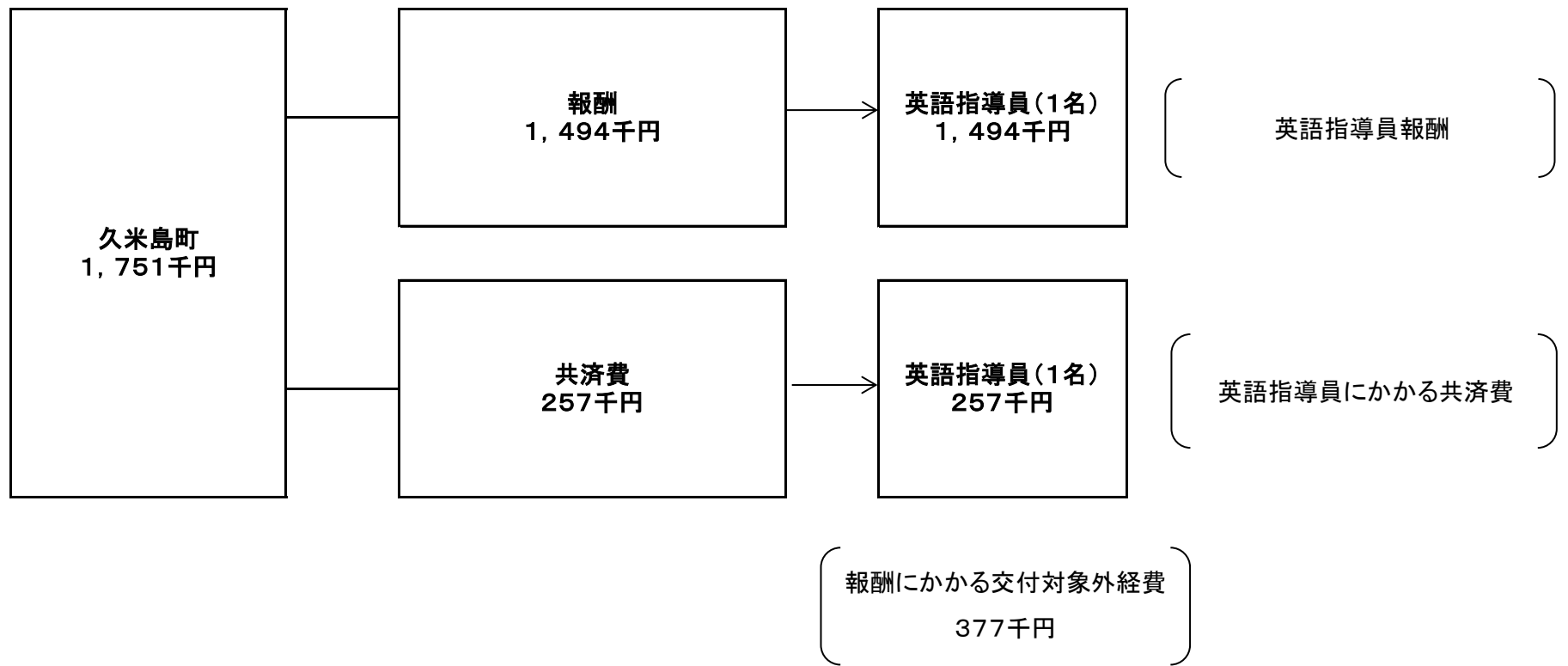
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・小学校教諭の英語力は、教諭ごとに差があり、指導員に求められる役割や指導レベルが授業ごと大きく変化するため、指導員の対応力や効果的な授業展開が課題となる。	・小学校教諭と指導員間で十分に意思疎通を図りつつ、研修会などを通じて授業の工夫・改善に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・効果的な授業の展開に向けて、小学校教諭と指導員の打合せの実施や中学校の英語主任を交えての研修会実施により、授業の工夫・改善に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,128	1,751	1,400	351	377



資金の流 点 目 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、実施要綱に基づくものであり、妥当である。 ○予算規模は、事業を実施するために必要なものであり適正である。 ○費目・用途については、事業実績確定時において支出等に関する書類により確認。英語指導員を配置するために必要な報酬、共済費に限定し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

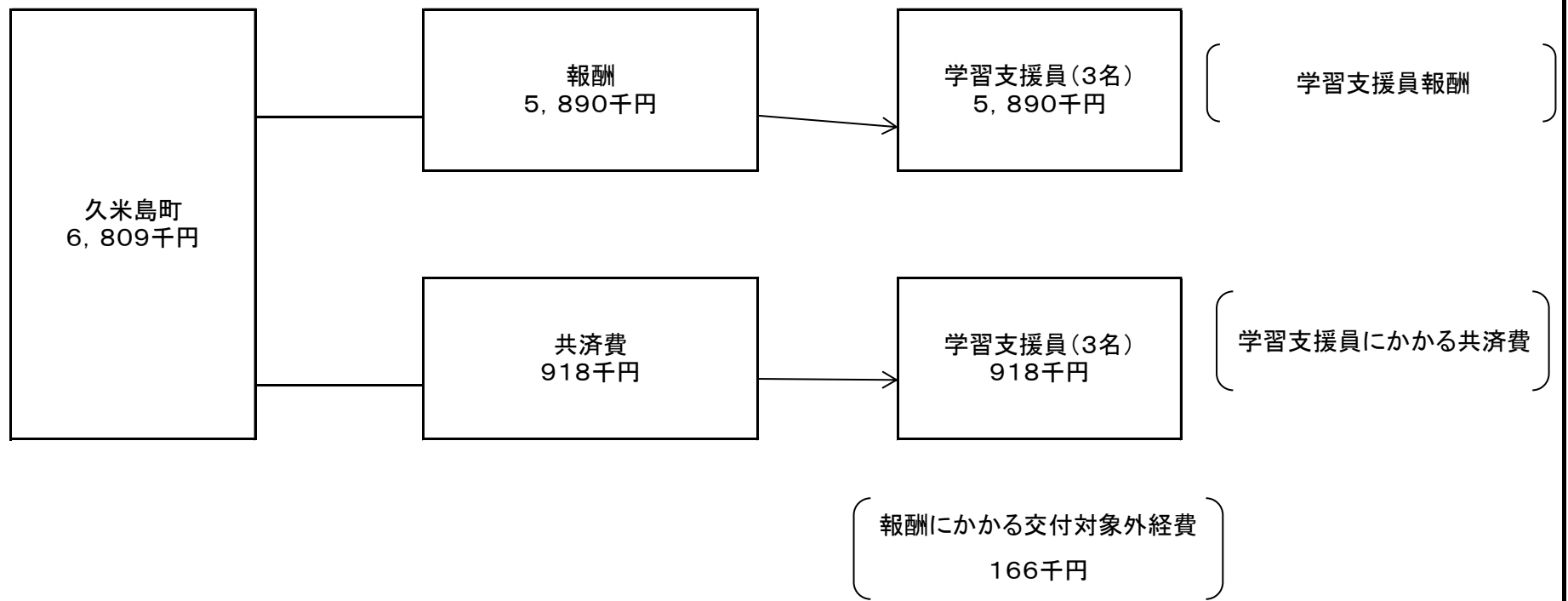
市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	基礎学力向上学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける教育の 推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学習支援員を配置し、学習未定着の児童にきめ細やかな学習支援を行うことで、学力の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,242	3,817	7,109	7,390	
		(b) 予算現額	3,052	4,333	7,009	6,987	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 3,190	516	▲ 100	▲ 403	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	3,052	4,333	7,009	6,987	
	B. 執行済額		3,051	4,253	6,910	6,809	
	うち交付金充当額		2,441	3,402	5,459	5,446	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.2%	98.6%	97.5%	
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容である支援員3名の配置できたが、計画活動日数よりも減ったため403千円を減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	基礎学力向上学習支援員配置数 (小学校3校に各1名)	目標	(2名配置)	(2名配置)	(3名配置)	(3名配置)	
		実績	2名配置(1名は2学期から)	2名配置	3名配置	3名配置	
			目標	()	()	()	()
			実績				
達成状況説明	小学校3校に学習支援員を配置することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力達成度調査において県と本町のとの平均正答率の差県平均以上	目標	()	(小3-6.6% 小5-3.7%)	(県平均以上)	(県平均以上)	()
		実績		小3-4.8% 小5-14%	4科目中3科目で県平均以下	7科目中4科目が県平均以上	
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	・平成29年度県学力到達度調査で 小学校3年:国語78.3点(県平均+7.8点)、算数85.6点(県平均+5.4点) 小学校4年:算数60.7点(県平均+1.6点) 小学校5年:国語62.2点(県平均-4.5点)、算数54.2点(県平均-0.8点)、理科59.5点(県平均+3.9点): 小学校6年:算数62.9点(県平均-2.9点)となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・小学校高学年で目標とする県平均点を下回る傾向が見られた。	・学習支援員が理解の足りない児童に対し、きめ細かな学習支援の強化を進める必要がある。

今後の取り組み方針
・授業の中で問題を解く筋道を一つ一つ説明したり、家庭学習と連動した基礎基本の指導を徹底するなど、学習支援を強化する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,975	6,809	5,446	1,363	166



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、実施要綱に基づくものであり、妥当である。 ○予算規模は、事業を実施するために必要なものであり適正である。 ○費目・用途については、事業実績確定時において支出等に関する書類により確認。学習支援員を配置するために必要な報酬、共済費に限定し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	特別に支援を要する児童の学校生活上の困難の改善を図るため、各学校に特別支援員を配置し、対象児童の学習支援や生活介助を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,797	28,655	29,513	30,524	
		(b) 予算現額	24,117	29,160	27,613	27,326	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,680	505	▲ 1,900	▲ 3,198	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	24,117	29,160	27,613	27,326	
	B. 執行済額		24,116	29,124	27,215	26,630	
	うち交付金充当額		19,293	23,298	21,576	21,304	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100%	99.9%	98.6%	97.5%	
予算の状況の説明		当初、特別支援員配置人数を15名で公募したが14名の応募しかなかったため、1名分を補正で減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	特別支援教育支援員配置数	目標	(小学校10名 中学校2名)	(小学校11名 中学校3名)	(小学校12名 中学校3名)	(小学校12名 中学校3名)	
		実績	小学校10名 中学校2名	小学校13名 中学校2名	小学校12名 中学校2名	小学校11名 中学校4名	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に関しては、配置予定である12名から中学校における優先度を考慮し、1名減し11名とする。 ・中学校に関しては、配置計画では3名予定するが、前年度末に学校からの要望のため1名増とし4名で適切な支援を行うことができた。 ・特別支援員の連絡協議会を実施し、指導方法の情報交換ができ児童生徒に対する対処方法を共有することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	対象となる児童生徒の保護者へのアンケート(特別支援員の対応への満足度)	目標	()	()	()	(80%以上)	()
		実績				83%	
	【参考】児童生徒の総合的な学力向上に繋げる。全国学力学習状況調査等で、正答率30%未満の児童生徒の数を減少させる。	目標	()	(小学生・5.1% 中学生・19.4%)	(小学生6.7% →5% 中学生27.5% →23%)	(小学校8.4% →5% 中学校18.8% →16%)	()
		実績		小学生・6.7% 中学生・27.5%	小学校・15.7% 中学校・11.6%	小学校・18.7% 中学校・12.3%	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の保護者へのアンケートでは、83%が特別支援員の対応へ満足していると回答しており、目標値の80%以上を達成することができた。 ・全国学力学習状況学力調査の結果、小学校においては全教科で目標まで未達成となった。中学校においては、5教科中3教科で目標を達成することができた。 					

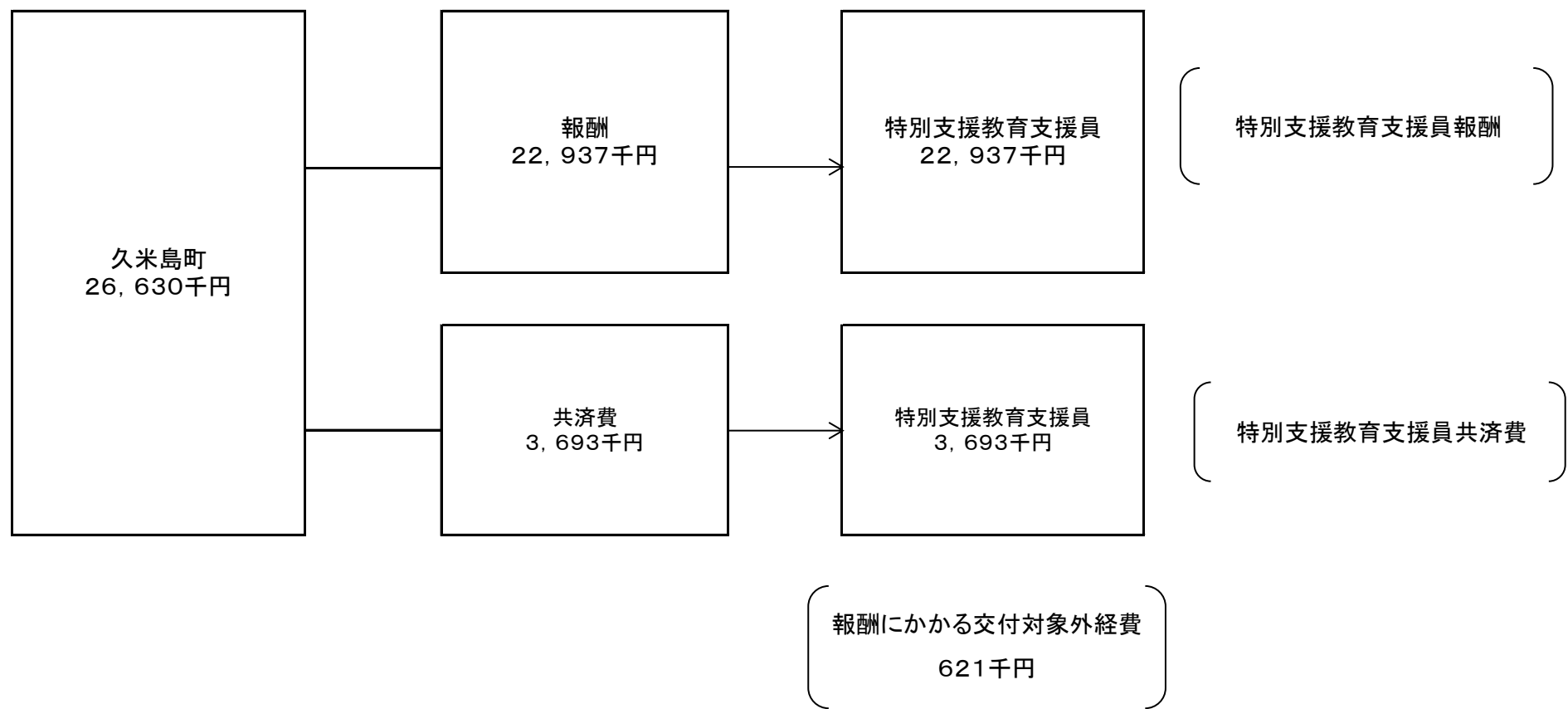
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 離島のため支援員となる人材の確保に課題がある。 通常学級等に在籍する児童生徒の障害の程度は個人差があり、求められる支援内容が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人材確保に向けた効果的な取り組みが必要である。 支援を要する児童生徒の対応にあたっては、専門的な観点から行動観察を行い、適切な関わり方を模索する必要がある。

今後の取り組み方針

- 求人情報に関する広報を発行するとともに、移住者相談窓口において求人情報を提供するなど、人材確保に向けた情報発信を強化する。
- 特別支援員間で支援に関する課題を共有し、学習支援や生活介助の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
27,251	26,630	21,304	5,326	621



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先の選定方法は、実施要綱に基づくものであり、妥当である。 ○不用額は事業費の2%であり適正な規模であった。 ○費目・使途については、事業実績確定時において支出等に関する書類により確認。特別支援員を配置するために必要な報酬、共済費に限定し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-④	児童・生徒各種大会派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成27~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
事業内容	島外の人との交流や競争の機会を確保し、児童生徒に広い視野を持たせるため、課外活動として島外で開催される各種大会への派遣旅費について支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,533	7,635	7,000		
			3,533	5,335	4,735		
			▲ 1,000	▲ 2,300	▲ 2,265		
			0	0	0		
			3,533	5,335	4,735		
		B. 執行済額	3,269	5,027	4,719		
		うち交付金充当額	2,615	4,021	3,775		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	92.5%	94.2%	99.7%		
	予算の状況の説明	当初予算では7,000千円を見込んでいたが、執行状況を鑑み補正予算(12月、3月)にて2,265千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	管内中学校生徒が各種大会等へ参加(派遣)する	目標	(派遣生徒876名)	(派遣生徒700名)	(派遣生徒700名)	()	
		実績	630名参加	509名参加	472名参加		
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	台風の接近により飛行機が欠航したため、比較的大人数の出場する大会に出場できなかったこと、人数が不足して1年生大会に出場できなかったことで、派遣生徒数が減少した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	生徒派遣(700名)により多様な能力と心身の発達や育成を図る	目標	()	(派遣生徒876名)	(派遣生徒700名)	(派遣生徒700名)	()
		実績		派遣生徒630名	派遣生徒509名	派遣生徒472名	
	【H30成果目標】派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が島内ではできない経験をすることができたとの回答割合80%以上を含め、アンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目標					80%
進捗状況説明	台風の接近により飛行機が欠航したため、比較的大人数の出場する大会に出場できなかったこと、人数が不足して1年生大会に出場できなかったことで、派遣生徒数が減少したため、目標生徒数に至らなかった。						

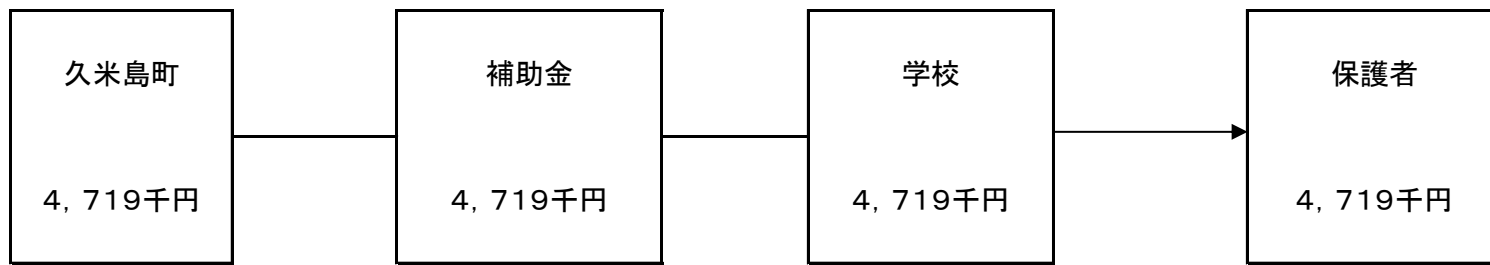
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の減少と共に派遣数の減少が見られる。また、団体種目の場合、1校でのチーム編成が困難となっており、派遣ができない場合がある。 団体の派遣については、宿泊所や航空券の手配が困難であり、特に大会日程の公表が開催日の直前になった場合は苦慮している。 同一年生が複数の部活動に参加しているため連続した派遣で自己負担額が重荷となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の目的に鑑み、生徒数が減少しても引き続き派遣を支援する必要がある。また、派遣対象とする大会の拡大や生徒派遣に向けたチーム編成(2校混成チームの派遣)を促す必要がある。 各種大会主催者に大会計画及び日程等をあらかじめ公表してもらい、計画的な派遣手続きが行えるようにする必要がある。 同一年生が連続して派遣された場合でも自己負担が過大にならないように補助のあり方を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

- 派遣対象を個人競技や文化活動への拡大も検討し、本事業の目的を達成するため、引き続き派遣を支援する。
- 計画的かつ確実に生徒の派遣ができるよう、各種大会主催者に日程等の早期の決定・公表を行うよう求める。
- 生徒の負担の実情を精査・検討し、補助額の見直しを検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,719	4,719	3,775	944	0



【補助内容】

- 生徒1名に航空チケット代5,000円、宿泊費2,500円/1泊
- 同一大会2回目(決勝や順延・他地区代表)派遣の場合生徒1名に航空チケット代全額、宿泊費2,500円/1泊

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は町内の全中学校校長としており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助対象である大会等、参加人数を審査し適正な予算規模となっている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○派遣先から補助が出る者については対象外としており、自己負担額も発生しているため受益者には応分の負担をさせている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○実績確認で費目、使途を審査しており、真に必要なものと判断した。

市町村名	久米島町						
平成29年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-⑤	ICTを活用した家庭学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成29~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
事業内容	学校外において、沖縄本島や本土と同等の学習環境を整備することで、学力の向上を図るため、ICTを活用した学習塾を2拠点に置きWeb会議システムを用いたオンライン双方向授業を行う「町営学習塾」を開設する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		16,800				
			14,620				
			▲ 2,180				
			0				
			14,620				
		B. 執行済額	14,506				
		うち交付金充当額	11,604				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	99.2%				
	予算の状況の説明	授業数の減や現場支援員賃金単価を町賃金職員と統一したこと、学習状況調査の受験者が当初見込みより減ったこと等の理由により▲2,180千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	31年度	32年度	
	ICTを活用した町営学習塾の開設	目標	(町営学習塾の開設)	()	()	()	()
		実績	町営学習塾の開設				
	【参考指標】 ICTを活用した授業数	目標	(560回)	()	()	()	
		実績	510回				
達成状況説明	町営学習塾が開設でき、放課後、児童生徒が学びに向かう環境づくりができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	学習塾で実施される期末テストにおいて、全国と本町との平均正答率の差	目標	()	()	()	()	()
		実績		小学校-5.6 中学校-14.8			
	【参考指標】 学習塾の小中学生の受講率	目標	()	()	()	()	()
		実績		小学校23% 中学校21%			
	進捗状況説明	・期末テストの受験者が小学校で25名、中学校で26名であった。全国との差が小学校では少しずつ全国平均に近づいている。中学校では受験した生徒間で習熟度の差が見られたため目標値を下回った。 ・参加した児童生徒にとって、授業や講師との交流等とおして学び方のヒント、家庭学習の取組の大切さ等が実感できたと考えられる。					

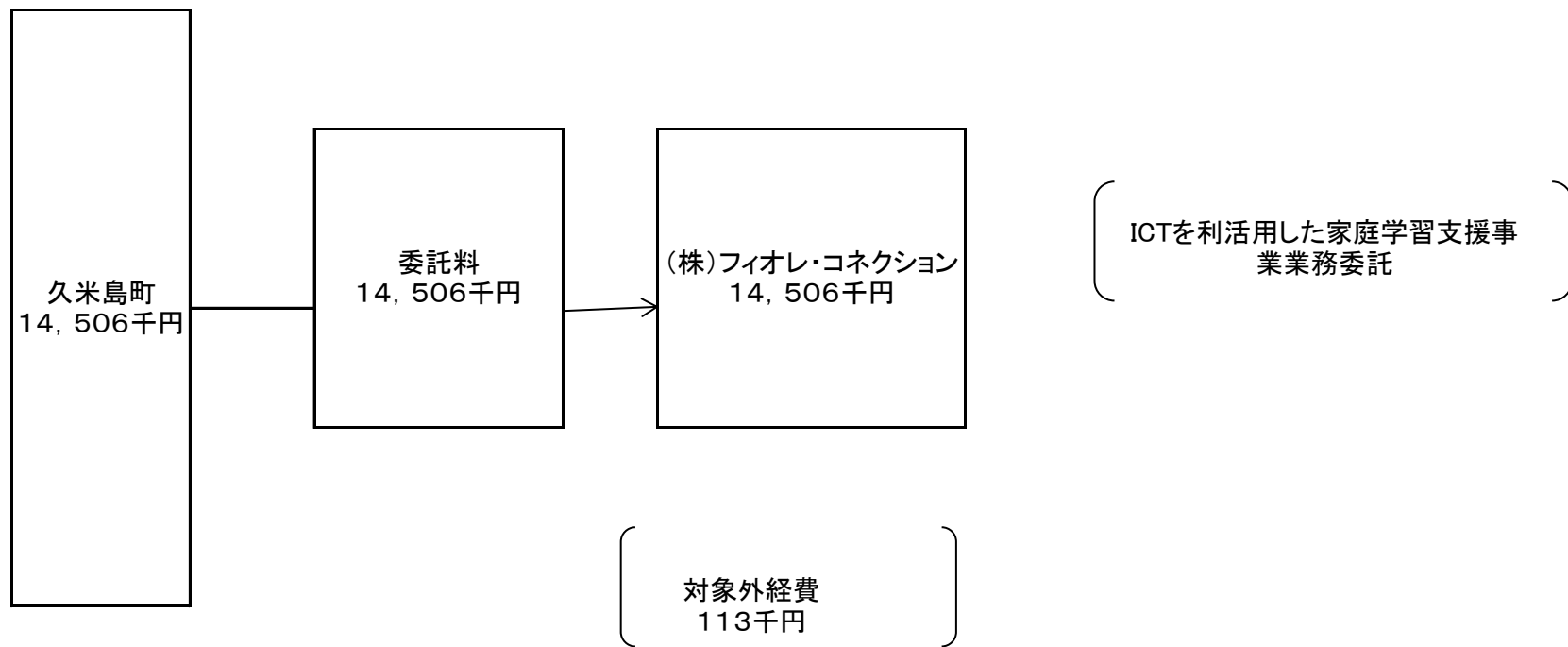
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・保護者への周知が遅かったことと、中学生にとっては、部活動等の放課後の活動が多い事が受講率の低さの要因と考えられる。また、平成29年度は会場が中学校に移動したことで小学生が参加しにくかったと考えられる。	・本事業の目的である学力向上に向け、中学生の放課後の活動に対応した時間割の編成、町営塾の取組の周知を行うことで受講者数を増やしていく必要である。

今後の取り組み方針

・受講児童生徒を増やしていくため、親子学習会を年度の早い段階で開催し、体験授業等を実施するなどして、保護者及び児童生徒に町営塾の周知を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,619	14,506	11,604	2,902	113



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、募集公告したが、1社しか応募がなかったため、企画選定委員会により決定したので妥当と考える。 ○授業回数を考えると見合った規模であると考え。 ○教材費は負担してもらっているため妥当と考える。 ○使途については、検査を実施しており必要であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	